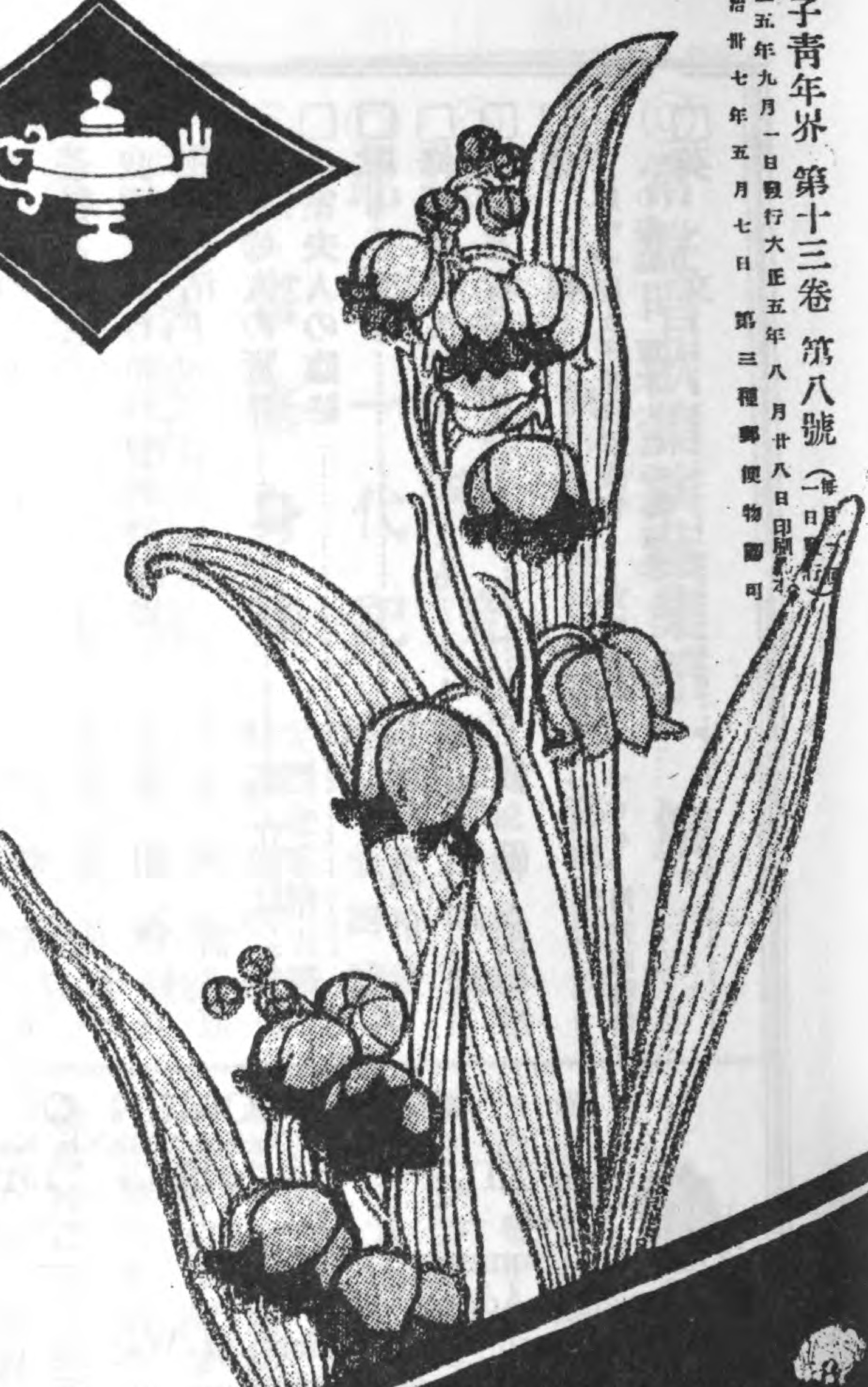
女子青年界 第十三巻 第八號（毎月一日發行）
大正五年九月一日發行 大正五年八月廿八日印刷納本
明治卅七年五月七日 第三種郵便物認可

女子青年界



第十三巻
九月號

要目

女子青年界第十三巻第八號

目次

YOUN WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XIII　　September, 1916　　Number 8

女子青年界

第十三巻第八號

（九月號）

大正五年九月一日發行

喪則全

其の生命を得るものは之を失ひ我がために生命を失ふものは之を得べし。

馬太傳十章三十九

我かぎりなき生命を嗣ぐために何をなすべき乎。

馬可傳十七章十七

神の子をもつ者は生を有。

約翰壹書五章十二

イエス曰けるは我に從はんと願ふものは己に克て日々其の十字架を負ふて我に從へ。

馬太傳十六章二十四

爾曹が播く所の物まづ死なされば生きず。

哥林多前書十五章三十六

若し死は多くの實を結ぶべし、其の生命を惜む者は之を喪ひ其の生命を惜まざる者は之を存ちて永生に至るべし。

約翰傳十二章二十四、二十五、

會説

第十一回夏期修養會を終りて

第十回夏期修養會を終つて後、更らに新しい望のうちに待たれて居た第十一回夏期修養會は、去る七月二十一日を以て横濱市フエリス女學校に開きまして、同二十八日會員一同の歡喜と感謝を以て無事に終了することを得ました。今第十一回夏期修養會の成績について少しく述べて見たいと存じます。

先づ來會者の著しく多かつたことで、今年の來會者數は別項彙報欄内に掲げた通りで、實に未曾有の多數であります。從て女子青年會支部は全國二十五箇所にあるのですが、其中二箇所を除き、他の二十三支部からは何れも代表會員を送りました。又これを學校別と致しますならば、ミツションスクールが十九校、基督敎主義のもの四校、其他の私立四校で官立が十校、都合三十六校からの出席者があつた譯であります。勿論從來に比して校數も增して居りますが、官立學校の數の增加したことは特に注意に價することであると思ひます。是等の傾向によつて見ると私共の計劃が漸次基督敎社會のみでなく一般社會からも認められるやうになつて、世間の情勢が如何に推し移りつゝあるかの一端を窺ふことが出來るのであります。

聖書の組は出席者に宗敎的訓陶及修練を與へたいといふ希望からして、年々會毎に大に力を盡すことでありますが、本年も亦各組の出席者を通計すれば

常に百人以上を數へました。其の割合は日本基督教會に屬する人が三十八名、美以派が二十六名、聖公會十四名、組合派の人が十三名、バプチスト教會の人が八名で、其他求道者などでありましたが、總ての止宿會員中未洗者十六名で其の中の半數即ち八名は受洗決心を致しましたやうなことは、全く此の聖書の組の働が少なからぬ助けであつたことを疑はないのであります。

本年の夏期修養會に就て最初に抱かれて居た危惧は横濱市に於て開會することは、或は從來のやうに成功を收めることが困難ではあるまいかといふのでありました。それは横濱の土地が東京などを相距る遠からず、且市場熱鬧の境に屬することでありますから、一般に向つて來會心を唆ることは、山間とか海邊とかの避暑休養地に及ばず、又來會者に對しても山紫水明の佳境に或は靜想し或は默禱し、或は談笑嬉戲する如き愉快は與へ難からうと懸念されたのも、強ち無理ではないのでありました。けれども實際は其の豫想に反して、最初の危惧は全く杞憂に歸してしまつたのであります。先づ東京などに近すぎると思つたのが、却て地理上の利便によつて止宿せない出席者をも誘ふことが出來て未曾有の數を示すに至つたばかりでなく、會場が學校々舍であつたために講堂や食堂、其他の設備が整つて居て、大小の諸集會は勿論、萬端好都合に運び、又會場たるフエリス女學校は横濱市の最高場所を占めて居て、俗社會を超越して居るやうな感がある上に、一方に芙蓉の峰を眺め一方に海に臨んだ眺望は、共に申分なく來會者諸姉に多大の滿足を與へることの出來たのは、實に何より幸なことでありました。

又今年の夏期修養會にて認められた特徴ともいふべきものは、社會問題に就ての講演の多かつたことであります。殊に婦人と社會との關係に就て注意を惹起されたことであります。例へば鵜澤博士の「法律と婦人」、高田愼吾氏の「我國に於ける社會救濟の事業」、長谷川喜多子女史の「婦人傳道」、ミス、マシ

ウの「米國に渡航する婦人に對する日本女子青年會の責任」、及小菅監獄典獄有馬四郎助氏の「免囚保護に就て婦人の責任」など、何れか刻下の日本婦人に取つて、又將來日本の社會の經營に任ずべき青年婦人のために、有益でないものがありましたらうか。元來此種の方面に就ての日本婦人の智識或は覺悟は一般に極めて乏しいのであります、しかも今後の婦人が最も活躍せねばならぬ方面であるので御座います現に是等の問題の解決を婦人の手に待つて居るものも、少なくないやうに見受けられるものもありますされば今年の修養會に於て是等の問題に觸れる所が多かつたのは來會者諸姉に對し、過去の修養會が未だ與へなかつた、或る一つの物を供することが出來たであらうと潜かに喜んで居る次第であります。

序ながら玆に附記したいことは、フエリス女學校が校舍を開放して我が修養會のために提供して、すべてに便宜を與へられ、又共立女學校にても十餘名の會員の分宿を諾せられ、バプチスト寄宿舍は講師諸氏の爲めにせられたことで、一々謝辭の申上げやうもない程であります。又講師諸氏が暑を冒して本會の爲にせられたるに對しても、實に滿腔の感謝を表して止まないのであります。

私共は過去の經驗に基き社會の趨勢に鑑み、益修養會の完備を思ふと同時に、來年は我國の東西に適當の地を選んで同時に兩所に於て開會する計劃を試みたいと思つて居ります。幸に内外兄姉の同情によつてこの目的を達することが出來るやうになるならば、私共の歡は此の上ないので御座います。

編輯より

一、豫告の通り本號は第十一回夏期修養會の講演記事等を掲載して紀念號を發行することになりました。しかも編輯を急いだり、一々講演の校閲を願ふことが川來なかつたのもあつたり、又紙數の都合で次回へまはしたものもあつたりして、誠に不完全なものとなりましたが、讀者各位の御寛恕を願ひます。

一、本年も秋になりまして私共の活動期に入りました、本誌は出來る限りの力を盡す積りで御座います、殊に河井總幹事も御歸朝になりまして、一層の發展を期して居ります。どうぞ皆樣の御加勢を祈上ます。會員諸姉及讀者各位の御健勝を祈ります。

永遠の道に生きよ

牧師　植村正久

今日私のお話したいと思ふことは詩篇の百三十九篇に就いてであります。

初めに大意を申上ぐれば、我々は神に造られたものである。それ故に神は我々の凡てを知り給ふ。のみならず我々の今迄の通つて來た道を顧みて見ると神は隨分我々の上に興味をお持ちになつて居るらしく絶えず樣々の方面より御導き下さつて居る。かく知られ導かれて來た事に思ひ到ると、唯もう神の惠みと愛とに感激するばかりである。かく感ずる樣になれば此度は、神に敵する者、神を無視して居るものが氣にかゝり出す。どうして彼等はあんなだらうどうか自分の樣な喜びの狀態に連れて來てやりたいものだ。さて此所に來ると此度は他人の事ばかり無暗に氣になりだして自分の目にある梁木が見えなくなるものである。これが大變恐ろしい、そこで神樣に御願ひする。どうぞ自分の心が、いつも自分に明瞭知つて居られますする樣に神樣御教へ下さいまし。まづかう云ふのであるが、聖書をお持ちの方々は十三節から十六節までをお讀み下さい。

汝はわがはらわたをつくり又わが母の胎に我を組成たまひたり。

われなんぢに感謝す、われは畏るべく奇しくつくられたり、なんぢの事跡はこと〴〵くくすし、わが靈魂はいとつばらに之をしれり。

われ隱れたるところにてつくられ地の底所にて妙につゞりあはされしときわが骨なんぢにかくるゝ

ことなかりき。
わが體いまだ全からざるになんぢの目ははやくより之を見日々かたちづくられしわが百體の一つだにあらざりし時にことごとくなんぢの册にしるされたり。

讀めば解る通り我々は神から造られた。それは唯造られたのではない根本的に造られたのであります唯造られたと云ふのと根本的に造られたと云ふのとはどう違ふか。例へばこの講堂は建築師によつて建てられたとは云はれる。しかし彼はこれを根本的に造つたと云ふ事は出來ない。何故なれば彼が用ゐた石材、木材、金屬凡て彼の造つたものではないからである。唯與へられたものを用ひて組み立てたと云ふに過ぎない。根本的の創造とは大分に違ふのである。神は我々を實に根本的に造り給ふた。かゝる事は或は皆樣にとつて興味が無いかも知れない。しかし少し考へて御覽になれば其所に多大の感興も涌き靈魂に刺戟を與へられることも實に少くないのである。天地萬物が今見るが如くなること、自分が存在して居ること、凡て我々には不思議である。しかし神は我々を根本的に造り給ふたのであるから皆知つて御出になる。我々は神の前に恐れ入らざるを得ないのである。我々は神の前に何も隱すことは出來ないのである。

エホバよ、なんぢは我をさぐり我をしりたまへり。
なんぢは、わが坐るをも立つをも知り、又遠くより、我が念をわきまへたまふ。
なんぢは我が歩むをも我が臥をも、さぐり出し、我がもろもろの途を、ことごとく知りたまへり。
そはわが舌に一言ありとも視よ、エホバよ、なんぢことごとく知り給ふ。
なんぢは前より後よりわれをかこみ、わが上にその手をおきたまへり。
かゝる知識はいとくすしくして我にすぐ、また高くして及ぶことあたはず。
我いづこにゆきてなんぢの聖靈をはなれんや、わ

れいづこに往きてなんぢの前をのがれんや。
われ天にのぼるとも汝かしこにいまし、われわが榻を陰府にまうくるとも視よなんぢ彼處にいます
我あけぼのの翼をかりて海のはてに住むとも、かしこにて尚なんぢの手われをみちびき、汝のみぎの手われをたもちたまはん。
暗はかならず我をおほひ我をかこめる光は夜とならんと我いふとも、
汝のみまへには暗ものを、かくすことなく、夜も晝のごとく輝けり。なんぢには暗きも光も異なることなし。

これが即ち神が我々を根本的におつくりになつた結果なのである。心の中にすつかりさぐりをお入れになつて、何もかにも、明かに御承知になつて居るのである。それに可笑しいことは我々が神に對する態度である。我々はどうかして神が知りたい、神に見えたいものと、心を焦立てゝ研究をはじめる、所が、なか／＼神は見えない。焦立てば焦立つ程朦朧として來て取り止めがつかなくなる。雲をつかみ、風を追つて居る様な心持がして來る、それは岩戸がくれの神話其まゝの形である。神様はぢつと蔭の方に引込んでお出でになる、それを我々が光りの方へ引き出さうとするのである。我々に屆かぬ所にお出になるのを、引き出さう／＼とやきもきして居るのである。これは宗教を研究するものの凡ての心持である。何故であらう。何故かく此方があくせくしてゐるのに神が瞭然と見えないのであらう。自分ばかりが骨を折つて、アヽ、もどかしいと、自暴自棄になることがある。しかしそれは間違つて居る。我々が見やうとあせる前に、實は我々が神から見られて居るのである。我々が思ひ設けぬ時にも神は我々を照らしてお出になるのである。決して此方から探ぐるのではない、神の方から探ぐつてお出になるのである。神が斯く我々の心に目をお着けになり、お調べになりして我々の弱點も過誤も、人も我れも知らぬ凡ての事も御存じになつて居るので、我々は神の

御顔を見上げる事がまぶしいのである。地鼠が明るみへ出された様に神の御前がまぶしく苦しいのである。即ち此方から神を探すのではなくて、實は神から逃げやう／＼として居るのであつた。目を抑へてまぶしがつて居たのであつた。心の中の凡てを知られて、間が惡くて面が上らなかつたのであつた。爲す所を知らなかつたのであつた。かういふ覺えは確かに我々のうちにあるのであります。即ち神に對する我々の本當の態度は常に受け身なのである。探がすのではなく探がされて居るのである。神より凡てを仕掛けられ目を着けられ、照らされて居るのである。此所で我々が閉口する。狂ふ。そして初めて神の存在が、わかるのである。神は決して、微かに在るものでない。朦朧たる實在でない。我々の存在より以上に確かな存在である。のみならず、

なんぢは前より後よりわれをかこみ、わが上にその手をおきたまへり。

唯神から見られて居る。凡ての事が露見したと感ずる許りでなく、神に前より後より我は、圍まれ守られて居る。神の御手は常に我が上に置かれてある斯く神の我れに對するお取り扱ひの事實を考へ到つて見ると、神の存在はいよ／＼明かになるのである。ヨブ記の十九章の八節からを讀んで御覧なさい。即ち

彼わが路の周圍に垣を結めぐらして逾る能はざらしめ、我が行く途に黑暗を蒙むらしめ云々

我々の行く道の兩側に垣を結んで外の途へ外れぬ様に注意して下さるのは神樣である。我々は常に名譽心に驅られたり、好奇心に導かれたりして、いろ／＼な事をやつゝけやうとして垣を躍り越えかける事がある。躍り越えて終つて居つたら飛んでもない道の方へ迷ひ込んで終ふのであつた。しかし何時も幸に差支へが起きて遂行し得なかつた。今にして振り返つて見ると、其處には黑雲がむら／＼と立塞がつて居る。あゝ神の御恵み。今日迄我が身に振り懸かつた。斯る經驗は、考へて見れば、どれ程澤山あ

るか知れない。我々は實に神の御目の中にあるのである。常に御心にかけられて居るのである。非常なる興味をお持ちになつて御導き下さり御守り下さつて居るのである。

皆様の中には久しい間教を聞いて居られる人が多からう。日曜學校時代から、女學校、專門學校と、而して其間には確かに樣々の信仰の變遷があつた事と思ふ。或る時は神の御導きのまに／＼歩かれたらうが、或る時は神の御許を避けた事もあらう。久しく祈りを口より斷つた事もあらう。そのまゝ進めばどんな道に迷ひ込んだか知れない。所が何かの事情に遭遇して思ひ返さゞるを得なくなつて、又信仰が復活された。こんな事は此所で私が一々擧げて見なくつても皆樣の方でそれ／＼經驗して居られる事である。其經驗は十人十色千差萬別であらうが、其所に違はない事が唯一つある。即ち神が我々の過去を恒に導き守つて下さつたといふ事である。既に我々の過去を守り導き給ふた神は更に我々の行く先きに就ても御配慮下さる事と信じられる。我々の未來に就ても、

なんぢは前より後よりわれをかこみ、わが上にその手をおきたまへり。

と云ひ得るのである。ヨブのいふ左右の垣根を辿り得るのである。いつまでも守られ、導かれ、抑へられ、上げられ、進められ勵まされ、引かれ得るのである。かく考へて見ると、神の我々に對し給ふ御働きは實に深い懇ろなるものである。お取りはからひは實に到れり盡せりである。斯く感じ來れば神の存在は已に既に確かで鮮かで、此方から知らう等とあせることが間違であることも了解されて來る。常に生きて働き給ふ神は決して隱れてなどお出でにならないのである。

われ眠さむるときも尙なんぢとともに在り

子供がすや／＼と眠つて居る。其枕邊に母が其の顔をのぞき込んで居るのも、頭を撫でゝ居るのも、蠅を逐ふて居るのも知らない。心地よく寢が足つて

目を開くと其處に愛に滿ちた母の顏がある。神と我との關係もこれなのである。

汝をまもるものは微睡たまふことなし
寢ることもなからん。
視よイスラエルを守りたまふものは微睡ことなく

神は我れ等が何も知らず眠つて居る間も御休みになることなく守つてお出でになる。徹夜して親の如く番をして居つて下さる。實に有り難いものである。更に恐れ多いものである。勿體ないものである。それ處でない。新約を讀んで見れば、我々が未だ罪人であつた時に、神を知らなかつた時に、神に背いて居つた時に、神は其の獨子をお遣はしになつて我々の罪をお贖ひ下さつた。人間の頭で考へられる事でない。實に不思議ぢやないか。斯くの如く我々を愛し、ものに仕度い、眞に神を知る神の子の姿に仕上げてやりたいと思召してお骨折り下さつて居るのである。實に限りない愛、測られぬ御惠みである。皆樣がかゝる處に來られたのも、これ確かに御導きであつたのだ。感謝ぢやないか。見えぬ御手が我を此所に導き給ふたと感ずる時、新しい意味と新しい喜びとが生じて來ませう。

あゝ神は在す。在して常に我を愛し惠み、導き救ひ給ふ。心此所に向へば曙の喜びに心躍りする事である。人世の赴亦變化せざるを得ない。實に不思議。故にダビテは歌つた。

神よなんぢのもろ〳〵の聖念はわれに貴きことい
かばかりぞや、その聖念の總計はいかに多きかな。
我これを算へんとすれども、そのかずは砂よりも
多し

畢竟基督者の生活はこれである。此の不思議なる神の態度、我れとの關係これらを明かにせずに唯愛に感じて全く自分の量見が神のまゝになるといふ所にあるのである。かく迄有り難き神の意志を無視しては相濟まぬ。何とかして御報い致したいものだと感じて來る處にあるのである。神の愛によつて目覺めた魂が眞實のものになつて、感謝報恩の生活を送

らうと努め出す處にあるのである。この生活を從來のものに比べて見ると實に夜と晝との差がある。かくなると唯自分丈が救はれ、自分丈が潔くなつて居るのでは氣が濟まなくなる。與へられた惠みに對して他人に多大の責任を感ずる樣になる。即ち

神よ、なんぢは必ず惡者をころしたまはん、
されば血を流すものよ我を離れ去れ、
かれらは惡き企圖をもて汝にさからひて言ふ
なんぢの仇はみだりに聖名をとなふるなり。
エホバよ、われは汝をにくむ者をにくむにあらずや、なんぢに逆ひておこり立つものを厭ふにあらずや。
われ甚く、かれらを惡みてわが仇とす。

何と云ふ荒い言葉であらう。血をすゝり肉を食はねば心癒えぬといふ昔の仇打ちの樣である。今迄の言葉が慈深いものであつただけ、なほ此句が強く響く。餘り調子が早變りし過ぎて居る樣である。しかし斯く見えるのも實は表面だけであるが、舊約時代と新約時代との差は確かに此所にある。新約時代の惠みに浴したものであつたら、斯うは書かなかつたらう。それはともあれ、君子は惡んで其美を知ると云ふ事もある。言葉違ひが氣に入らなくつても味へば其所に道理がある。精神を握つて見やう。それはかうだ。君辱かしめらるれば臣死すといふ言葉がある。これは美しい君臣の情である。臣たるものは常に君の爲めに命を投げ出して居る。此所だ。神と人とは前文に繰り返された樣に深い〳〵關係を以て居る。一度神の惠み、愛に感じた者は心熱してあふるゝばかりである。此の心を以て社會を見廻はす時にどうであらう。我々の周圍には、この有り難い神を知らぬ人が一杯あるぢやないか。神を無視し、神に背き、主の愛を知らぬ人がうよ〳〵して居るぢやないか。恐ろしい。不信仰ほど恐ろしいものはない。主の愛を無視するほど非道な事はない、これが平氣で見て居られやうか、君辱かしめらるれば臣死す。我れに對する重ね〳〵のお取扱ひ御親切なる御手當

を思へば立たずに居られやうか。默つて居られやうか。殘念に思はずに居られやうか。人世の損害これに勝るものはないのである。何とか處置を着けねばならない。立たなければならない。皆樣も今かく考へてお出でになることであらう。もしさうでなかつたら實に情無い事である。數日此所に研究しても唯記憶を提げて歸る丈であつては何にもならない、過去を想ひ現在を觀じて大いに奮ひ立つべきである。基督教は決して道樂でない。有り難いもよいがそれ丈では足りない。有り難いなら立つべきである。しかし此所に一つ注意を要する事がある。人は熱し過ぎると後を見る閑がなくなる。所謂傳道蟲になつて終つて人の事を氣にして天下を患ひ未信者を說きまはつて自分の事は棚の上。これは亦非常に危險である。前門虎を防いて後門から狼に襲はれる姿である。そこでかく歌はれて居る。

　神よ、ねがはくば我をさぐりてわが心をしり我をこゝろみて、わがもろ〳〵の思念をしりたまへ。ねがはくば我によこしまなる道のありやなしやを見てわれを永遠のみちに導きたまへ。

此れが又非常に調子變りである。木に竹を繼いだ樣である。しかしこゝが又必要缺くべからざる所である。自分の事が修まらずに人の事の出來た例はない。自分はあさましくも躓き易き弱いものである。自分の心の中には危險なものがある。心靜かに祈る時には天にも上る思がする。誠に結構だが、時經れば淺ましくも醒めて行く、變つて行く、今日は焰の如く燃えて居るかと思ふと、明日は氷の如に冷くなる皆樣にも此の經驗はあつたらう。恐るべきは此所である。故に「われを試みに逢はしめ給ふな」と願ふ必要を生ずるのである。神に賴り奉りて心丈夫な樣でも、一方常に自分の心が氣味惡いのである。主を三度知らずと云つたペテロも、主を三十銀で渡したユダも、我が心の中には入つて居る。實に油斷も隙もならないのである。これを思ふと、人事でない。人を救ふ事が大切であると同時に自分を神に托すこ

とを忘れてはならない。淺ましく變り易い、我が心は常に神に守つて居つて頂かねば危い。謙り下つた用意深き此の句は實に味ふべきものである。自分の心定まれりと思ふのは實に大なる誤りである。詰らぬ自分等も辛く現在の所までは連れられて來た。しかし將來未だ〳〵呑氣な事では行かれない。此の句を常に神に向つて呼はり。自分の力では取り除け得ないでゐるバチルスを取り除けて貰はねばならぬ。此の祈りは必ず神に聽かれる、決心さへ強ければ必ず遂げられる。其のかはりに右の目もくり拔く元氣と覺悟が無ければならない。基督教はかゝる事を斷乎としてやり通す所に特徴を持つて居る。金剛力を出して眞に努める、やる、行ふ。この言葉を心掛けるのである決して一塲の感動位で終るべきでない。「神よ願はくば我々をさぐり給へ、病痕をさぐり出し暴露しこれを取り除き給へ、かくて斷乎として取るべき處置を敎へ給へ、我は唯命のまゝにこれ進まん」これは決して氣休めではない。やるのである。氣分を確かにして全身全靈の勢を籠めて眞面目にやり遂げるのである。

人間の途は二つよりはない。一は「邪の途」で隋弱柔弱、肉慾、名譽心、虛榮心等のはびこる途、一は「永遠の途」である、神の導き給はんとする途である我々の前にはこの二道が開かれて居るのである。

どうか神の愛し給ふこと、神の心に掛け給ふこと魂に常に手を下し居たまふこと、主を降して迄も救ひ給ひしことを記憶し感謝して、堅く決する處あり念の上に念を入れて神の欲りし給ふ永遠の道に堅く立つて一歩一歩進みたいものである。新しい生活にしつかりと入つて行きたいものである。

ねがはくば我によこしまなる道のありやなしやを見てわれを永遠のみちに導きたまへ。

（第十一回夏期女子修養會講演梗概）

献己奉仕の光榮

神學士　稻垣陽一郎

「それ生命を得るものは、之を失ひ、我ために生命を失ふ者は之を得べし。」この主キリストの逆説に、基督教生活の根本原則は含有せられありと謂ふべしキリストは其弟子たらんとするものに、十字架を取りて從ふことを要求したまへり。之れ基督教生活は多大なる道德的分子を含めるが故也。基督教信仰は基督教生活によりて證明せられ。基督教道德は、基督教信仰によりて維持せらる。基督教生活は道樂に非ず。嚴肅なる道德生活也。基督教信仰は趣味にあらず、任意的獻己奉仕の生活也。基督教は信ずるが如く、行ふことを要求す。而かも其行ふ所や、多大なる克己を含む。「世と肉と惡魔」に打ち勝ち。肉に就ては死に、義に就ては生くることを要求す。されば基督教生活は、一に此逆説の諒解と實行にありと謂ふべし。此獻己奉仕の精神は少くとも三重の意味に於て肝要也。

一

獻己奉仕の精神は、神の國の發展の爲に必要也。

ステパノは、石にて打殺され、基督教會第一の殉教者たる榮冠を戴き。タルソのサウロは、「其益となりしものを、キリストによりて損ありと思ひ」。使徒パウロとして、「是等の凡てのものを損せしかど、之を糞土の如くに意ひ」（腓三〇八）て殉教せしが。新約書の過半の大文字に於て、今尚生けり。

スムルナの監督ポリカープは、キリストを咀へ然らずば、生命を喪ふべしと市吏より脅迫せられ、「八

十六年、われは我主に仕へたり。然かも其長日月の間、主はわれに何らの不善を爲したまはざりき。然るを焉んぞわれ主を咀ふを得んや」とて從容死に就けり。彼はキリストの爲に、其生命を棄てたり。されど殉教者の血は、教會の礎なりと知らずや。

「イエス會」の創立者、イグネシアス、ロヨラが、其同志の一人なるフランシス、ザビアの耳に絶えず囁きし一語は、實に此主の逆説にてありたり。然し誰か期せん。ザビアは後日印度を經て、日本に福音を齎らしたる最初の宣教師たるに至らんとは。

當年　劍橋大學の秀才たりしエドワード、ビカステスが。印度傳道の使命を感じて、本國に於ける有望なる地位を擲ち、デーリーに於ける劍橋大學ミッションを創立する爲に、出立せんとするや。其父＝當時有名なりしエキセターの監督が、其長子に與へし餞別の標語は、實に「我が爲、福音の爲」(可八〇卅五)にてありし。後、神の命あり、日本に派遣せられて、日本聖公會を組織し、其の憲法と法規を制定し、日本に於ける聖公會の基礎を据え。身は死に至る迄、稀に見る勇氣と堅忍を以て、日本傳道の爲に奮闘して遂に四十七歳にして逝きたり。彼は其父の與へし標語を文字通に實行せしものにてありし。

教會の發展は、古より此種の獻己奉仕の男女に負ふ所多大也。假令今日の信者には、羅馬に於けるアレナの見物臺を圍繞せる無數の觀衆の歡呼の間に餓えたる獅子の餌となるが如き迫害はなく。從て殉教者の如き最後を遂ぐるの要なきも、殉教者の精神と覺悟は、我國に於ける神の國の發展に於ても必要也。世に放任しても繁殖するものは、雜草と蠅なり而かも雜草は畑を荒廢せしめ、蠅は人畜を害ふ。凡そ高貴にして、崇美なる事業には、多少の犧牲の伴はざること稀なり。一粒の麥、地に落ちて先づ死に後多くの實を結ぶ。幼稚ながらも日本の教會が今日迄に發達し來れるには、幾多有名無名の小ステパノ小パウロ、小ポリカープ、小ザビア、小ビカステスありしに相違なし。彼等は種を播き、水を灑ぎ。わ

れらは、今其果を收めつゝあるなり。

同く日本に於ける基督信徒にても、大正の信徒と舊幕時代若くは明治の初年の信徒とを比較するときは其覺悟と決心とに於て、確かに多少相異るものありしならん。大正の御代安泰にして、信敎の自由を與へられある今の信徒には、踏繪を知らざるものあらん。或は何故に、子安觀音とは、其神體屢々聖母子なるかを怪むものなしとせず。平和と自由を以て信仰生活を送り得るは、われらの特權也。之を感謝することをこそすれ、若しわれらをして、邪宗門禁制の昔に生れたらんには、一層よく獻己奉仕の生活を送り得たらんものをと言ふべきにあらず。されど今日の信徒は博物館内に、考古史料の一となり居る邪宗門禁制の高札を眺むることによりて益する所あらざるべき乎。此高札の故によりて、我國初代の信徒が、其信仰を維持する爲に、幾何の獻己と忍耐を要せしかを學ぶの要あらざる乎。

われら多く神に仕へんとすればするほど、犧牲の度が强大なるべし。神の要したまふ祭物は、任意の獻己奉仕也。任意の獻己奉仕は、われらがキリストを愛する精神の厚薄を量る計量器なり。「敎會は神の敎會也。神は自から敎會發展の責任に當りたまふべし。何ぞわれら人間の努力を要せんや」とは、海外傳道補助を拒む口實よりは、寧ろ之れ利己偷安の陋劣なる心事を曝露せるものなり。成程敎會は、神の敎會也。されど神は之を經營するに當り、人間を用ひたまふ。人間は其才能、其學識、其辯舌、其文筆其藝能、其金錢を聖別して、神の用に供へ、地上に於ける神の國の發展の爲に貢獻すべきなり。天地の造主なる全能の神が、其聖業を地上に、成就するに當り、われら卑弱の人間を採用して、人類救濟恢復の大業に參加せしめたまふ。あゝ之れ何たる驚くべき神の謙抑なるぞ。あゝ之れ何たる人間の特權なるぞ。此に獻己奉仕の可能あり。此に獻己奉仕の光榮あり。此に獻己奉仕のローマンスありと謂ふべし。

二

獻己奉仕の精神は、種々の人事關係に於て必要也。

一、社會改善の爲に必要也。使徒ヨハネは曰ふ「主はわれらの爲に、命を捐てたまへり。之によりて、愛と謂ふことを知りたり。われらまた兄弟の爲に、生を捐つべし」(壹約三〇十六)。之れ實に救濟慈善の眞精神也。使徒パウロの勸告も之と同様なり。「愛を以て行ひ、キリストの我儕を愛し、我儕に代りて、己を禮物となし、犧牲と爲して、神の前に馨香あらしめんとて獻げ給ひしが如くすべし」(弗五〇一)之れ冷水一杯にても、キリストの御名によりて、人に與ふるの精神也。之れ二枚の衣を有するものが乏きものに其一枚を與へて惜まざる精神也。「受くるよりも與ふるは福也。」されど今の世は、與ふるに吝にして受くるに敏し、然るに受くることのみをつとめて世の救濟、社會の改善の行はれし驗は、未だ曾て之あらざるなり。

二、眞の友情維持の爲に必要なり。「人その友の爲に命を捐つ。之より大なる愛はなし」と主イエスは曰ひたまふ。之れ友愛の極致也。眞の友愛は、受けんとするによりて成らず。與ふるに於て成る。私なく己を棄て、友の益を圖らんとするに於て、美き友愛の花開き、「タビテとヨナタン」の如き愛の果、結ばる。

三、眞の家庭の幸福と平安の爲に必要なり。一家の寶物は、先祖傳來の家寶よりも、家庭の幸福と平安は、此精神の消長と相關す。家庭に此精神あらば、其家庭は圓滿にして、平和充つべし。されど若し其家族員にして、利己自恣あらば、一人の欲望を滿足せしむる爲に、他を犧牲に供せんとするに至る。かくて其家如何で圓滿なるを得べけんや。

三

獻己奉仕の精神は、品性修練の爲に必要なり。

聖徒の品性に達せんとするには、克己の階段を昇らざるべからず。品性修養には、エレベーターは、使用せられず。飛行機も利用し得ず。天國への旅路には、電車自働車の便もなし。古の東海道を旅する

が如く。自分の脚にて一歩又一歩と辿るの外なし。文覺上人は、自から那智の瀧にて修行せり。アントニーは自から荒野に引退したり。品性の修養には名代を出し得ず。自づから高樓に安居しながら、僕婢をして、おのれに代りて、克己の修行を爲さしめ得ず。『我に從はんとするものは、己を棄て、其十字架を負ひて我に從へ』(太十六〇二四)と主は仰せたまふ。凡そ偷安逸樂の精神ほど、品性修養に害あるものはなし。之れ草鞋掛にて五十三驛を、一歩又一歩と旅する代に。汽笛一聲、汽車にて一思に通過せんとする心なり。之れ難を避けて、安に就かんとするなり。之れ十字架によらで、權勢によらんとするなり。之れ棘冠を避けて、王冠を執らんとするなり。

ロンドンなるテイト繪畫舘に、「二個の冠」と題する一畫あり。正面中央には、金銀をちりばめし鎧に身を固め、頭には光四闇にまばゆき王冠を戴き。肥馬に跨りて、威風堂々、街を過ぎんとすれば。森の花の如き盛裝せる多數の乙女等、色艶かに、香薫しき花を、左右より競ひ獻ぜんとす。而かも其背景には、棘冠を戴きて、十字架にかけられしもの立つ。二個の冠。前者は世と共權勢と逸樂を代表し。後者はキリストと共に從はんとするものに要する。獻己を代表す。われら果して孰れを選ぶべき。心ある者、畫前に佇みて、感慨を催さゞるものは稀なり。

主キリストの生涯にも此二者擇一の試練ありし。初めては、傳道の門出に於ける荒野引退の際に心中に來り、後には其晩年に實際に來れり。若し王冠を招ぶことよかりしならんには、主に其評判の洛中洛外に充ち、人望の絶頂に達せる時、人々主を擁して強て王とならしめんとせし時に當り、一諾容易にユダヤ人の望みしが如き王となり得たらん。苟も野心あるものについては、これ絶好の機會也。一たびありて、再び來らざる好機なりしに相違なし。然るに何故に主は人民の望に、其身を委せず、却て獨り窃かに山に靜退したまひしぞ。答は頗る簡單也。理由は極めて明白也。シーザーは永く王位に止らず。ナ

ポレオンは、セント・ヘレナの露と消えしも。イエス、キリストは、十字架上より人類を支配するによりて知るべし。

　われらの生涯にも此種の二者擇一なからずやは。大小の差はあらん。强弱の相違なしとせず。されど何人の生涯にも、此種の試煉は、或場合に來るべし。神の召に從ふ乎。將、惡魔を拜むべき乎。之れ人生の十字街頭也。東せん乎、西すべき乎。狹き道あり廣き道あり。若し此際選擇を過らば、其一生涯を過るべし。一事は確實也。主仰せたまふ、「生命に入るの門は狹し」と。門狹しとは、克已を意味す。犧牲を意味す。獻身を意味す。棘冠を意味す。十字架を意味す。されど同時に、眞の勝利を意味するものなり。

涙とともに播くものは
　喜と共に刈りとらん
其人は種を携へ涙を流して出てゆけど束を携へよろこびてかへり來らん。

四

「その生命を得るものは、之を失ひ、我ために生命を失ふ者は之を得べし。」若し聖書中に標語を採らんとせば、恐らく是以上に、是以外に、其意義の深遠にして、其精神の崇高に、其應用の廣汎にして、かつ實際的なるものは、稀なるべし。蓋は之れ主キリスト自から採りたまひし生涯の大方針、大主義、大原則なればなり。從て之れ基督敎生活の根本原則なればなり。然り。基督敎のてを以て立つインカーネーションの大敎義も、畢竟生を棄てゝ生を得る此原則に基けるものなればなり。

　されば之は第十一回女子靑年會夏期修養會の標語と謂ふよりも、むしろ凡ての基督信徒の標語たるべきなり。從て之は修養會一週間の生活の標語たるに止らず、來會者一生涯の標語となすべきなり。

　されど標語は看板に非ず。裝飾にもあらず。標語は床間の掛物の如く飾り置くべきに非ず。着物の如く絶えず身に着くべきなり。標語は一時の興奮劑に非ず、清涼飲料にもあらず。日常の食物の如く、食

ひて消化すべきなり。入るにも出づるにも、常に身を離すべからず。誘惑の時には、之を撃退するの劍となるべし。悲哀の時、われを激勵する心の糧となるべし。怠惰自恣に陷らんとする時には、われを鞭韃する鞭となるべし。横路傍蹊に迷ひ出でんとする時に、わが足を指導する案内者をなすべし、一進一退、坐臥出入。一刻も之を離すべからず。又離るべからず。離れず、離さず。其如く行ひ、其如く生くべし。然り、此標語は諸姉の生活となり。諸姉の生活は、生ける此標語となるべし。而して諸姉の選びし標語は、主キリストの爲に、生命を喪ひて、生命を得るにありとせば、諸姉の覺悟は尋常にてあり得ざるべし。されど諸姉の獻已は、徒死に非ず。Pro Christo et ecclesiae「主と其敎會の爲」に、其生命を獻ぐるにあり。之れ古の聖徒古の殉教者の辿りし路を踏むなり。假令其途は崎嶇たりとも、僻易すべに非ず。骸子は投ぜられたり。ルビコンは渡れり。劍は鞘を脫せり。矢は弦を離れたり。運命は此一戰に決せられざるべからず。此に此標語のローマンスありと謂ふべし。

今の日本は、諸姉の選びしが如き標語を其生活に實現する基督敎婦人を要求す。切に要求す。若し昔ギデオンの部下に屬せしバールに其膝を曲げざりし少數の勇士は、多數のバールの將士を擊退し得しとせば。此に此標語の下に祈り、此標語の下に語り、此標語の下に考ふる所ありし二百の有爲有望の基督敎女子靑年が協同一致、起つあらば、我國を動かし得ざる理由なきなり。諸姉の責任や重し。されど諸姉は自から難きを選びしを憂ふるを要せず。生命を失ひて生命に入りたまひし主は。其御足の跡を履まんとするものを助けたまうべし。「われはわれに力を與ふるキリストによりて、凡ての事を爲し得るなり」。若し古の使徒に於て然りとせば、今日の諸姉に於ても然らざるの理由なければなり。

（第十一回夏期女子修養會講演梗槪）

クレネのシモン

牧師　星野光多

加拉太五章十六參照

此人の事は新約聖書に唯二三ケ所記されてあるのみで其他は想像を加へて話す事になる。

馬太傳二十七章三十一―三十二節、馬可傳十五章二十一―二十一節、及び路加傳二十三章二十六―二十七節には共に兵隊共イエスを曳行く時田舍より出て來たクレネのシモンを執へて十字架を負はせた事が記されてある、其頃踰越の節があつて天下諸國からユダヤ人が澤山エルサレムに集まり、身分のよくない金のないものは近在の民家を借りて宿をとつて居たクレネは亞弗利加北海岸にある町でアレキサンダとパリセイといふ大都會の眞中にありギリシヤ語を使ふユダヤ人が多く居た、其何百哩も離れて居るクレネから遙々出て來た者の中にシモンも居り近在に宿をとり毎朝エルサレムに通ふ事になつてゐた、此朝早く出て來たが常と違ひ兵隊に追立てられ十字架を負ふて處刑場に引かれる者があつた、當時の習慣で自分の付けられる十字架を自分が脊負ふ事は刑罰の中に含まれて居た、思ふにイエス心身大に多忙で疲勞を感じこけつ轉びつ歩を運ばれた、流石に兵隊も見兼ねて居たが、さればといつて穢らはしい十字架に手を付けて持て行く親切はない困つて居る矢先橫道よりクレネのシモンが出て來た、よい所へ來た田舍者よと否應なしに十字架をシモンに負はせた、十字架の半分を負はせたといふ者と全部負はせたといふ者があるが是は何れでもよい、此出會頭に負はされ

た、十字架がシモンに何の影響を與へたであらうか想像に加へて聊か證據がある、聖書は唯一字でさへ大に得る所がある、馬可傳に「アレキサンデルとルフの父なるクレネのシモン」とあるによつて彼は二人の男の子を持つて居た事を知る彼等はポーロの弟子らしく聖書第二流の人物である、馬可は馬可傳をエス十字架にあげられし後三十年以上經て書いたが其當時彼等の名は世に知られて居た又當時アンテオケの教會といへば大したもので使徒行傳十三章の始めにあるシメオンは即ちシモンで五六人の豫言者中其一人であつた、多少異論はあるが中々立派な先生が之を主張して居る。も一ヶ所は羅馬書十六章十三節であるポーロの挨拶の中に「ルポと其母」とあるがルポは即ちルフの事である。ポーロは獨身者であちこちの家庭の厄介になり、隨分家庭的訓練を受けて居る、アクラプルスキラの夫婦と共に長く生活し又此クレネのシモン及び妻子とも共に暮らして親しき交をした事もある彼はルフの母を尊敬して居るが羅馬の主なる信者に送くつた手紙の終りにルフと其母に安きを乞ふとある、此母はシモンの妻と考へられるシモンが五六町十字架を負ふて基督を御助けした爲め其妻子までが教會の爲め力ある働を爲したといふのは愉快な有難い話である。是は多少想像を加へた事であるから歴史上の確な事實としては不充分である然しクレネのシモンと其家族が救はれたとすれば適當な説明を要すその一二を擧げるとシモン出會頭に十字架を負はされた時直ぐ一種變つた空氣を呼吸したエスの十字架を見て普通の罪人が仕置場に連れられるとは思はなかつた。

亂暴な羅馬の兵士エスに對する取扱振は多少變つて居て十字架を運んではやらないが同情をよせて居り女達も泣きつゝエスの後について來たシモンは纔か十分か二十分の内に不思議な感動を與へられた此時エスは重き十字架を負つて最後の苦しみを共にした彼に對して如何なる態度をとられたであらうかザアカイ人の求道心に報ひられた如き血漏をやめる

女の信仰に對し救を與へ給ひし如き或はサマリヤの女より受けた一杯の水に對してゞ深い御言葉與へ給ふた等を考へればエスはどうして無頓着で居られやう必らず樣子を以て言葉を以て彼に感謝しシモンを救はうと思はれたに違ひない、エルサレムの宮殿に聖靈の下つた時百二十人の弟子達の中にシモンも居た、其後その信仰が妻子にも傳はつたといふ。

シモンの殘した事實より修養會としての教訓を得たいと思ふ、これ十字架の分擔であらう、勿論救の十字架は唯一つで其他に救なし此救の十字架を我身に實現せしむる爲め又人の身の上に實現せしむる爲めにエスの十字架を分擔せねばならぬ唯十字架を見た丈唯見せた丈では我々を十字架に導く事は出來ぬ十字架の巧果を人の身の上に收めるには我々自ら彼の十字架を身におさむべきであるその負ふべき十字架に二種あると思ふ、我が自分の身分の上に實現すべき十字架、他人の上に實現せしむべき爲負ふべき十字架である羅馬書六章三節、加拉太書二章二十節同五ノ二十四及び可林多後書五ノ十七にある言葉を參考として基督と共に十字架につける事己れの意志決心より來る事に付注意を願ひない、バプテスマを受けるのは自分が自分を十字架につけ肉と情と慾を十字架につけることである故にクリスチヤンは積極的に自分の意志より自分をつける事が大切であるのに折角神の惠みを受身にして基督が凡てを爲して下さると平凡で居る事が多い、かく理想よりいへば我々洗禮を受けた時古き我は十字架につけられて死し新らしき我が現はれるべきであるのに實際は中々むづかしい、一罪人死刑の宣告を受けても二三年後に死罪の執行をうく、其間には何年もかゝるのである我々キリストを信ずるのは我々自身の死刑宣告を受けたので一方よりいへば新らしき生に入つたといふけれど其新生命は即ち神の宣告でその宣告を受けたからには一生涯かゝつて成就せんと心掛ける事が大切である何故なれば肉、情、慾にはあらゆる罪惡含まれ虚榮心、嫉妬心等は心中に潛むで居る、洗禮を

受けたからとて心中一時に日本晴になつたとはいへない、それ故自ら十字架にかゝつてそれを實行して行くのが所謂修養である此會もその一部分で死刑執行の階段である、更に人の事にして考へれば矢張同じである家族の者或は友人を基督の十字架の恵みに與らせたいと思ふ塲合に其人の爲め自ら十字架を負ひその御手傳ひをせねばならぬ、まづ己れより負けなければ其人をして基督の十字架に與らせる事は不可能である、同じ友達にも惡癖ある困つた性質の人と交はり其人を導いてゆく事は容易でないまして己れの友でなく自分に對して不親切の態度をもつ者、冷淡な者、我儘勝手な者或は趣味のあはぬ者を救ふには餘程十字架を負はねばならぬ、勿論此二種の十字架は基督の大いなる十字架に附屬すべきものなる故己れの意志と思慮を練ると共に常に彼の十字架を手本とすべきである。

　此二種の十字架を負ふにつき愉快な説明が加へてある路加傳九章二十三節に「日々に十字架を負ふべしとある。一思ひに十字架を負ひ一足飛に聖人にならんと跳くから失敗するのである故に我々はこの日々にといふ事に注意したい、或人いふ「我等神に對して大負債ありされど日々の濟崩により其大なる責任を果すの道あり」と、日々十字架を負ふうちには惡事をなす者も善に至り肉、情、慾に滿された思は聖靈に滿ちて來るやうになる本年修養會の標語の實行方針は靜かに聖者になれ〝Try to be a Saint quietly〟である、かのクレネのシモンは朝出る時十字架を負はせられるとは思はなかつた出會頭に逢つたのである眞平御免と逃れゝばそれ限りであつたのを自ら進んで十字架を負ふた爲實に有難い結果を得た我々も一年中の事を前から考へておく事は出來難いから出會頭の十字架で充分である。八釜しい父の雷母の小言も十字架を負ふと思へばオルガンの音に思はれる他人との交際に於ても不快と感ずる事を忍耐すれば己れのみならず他人も救はれ靜かに聖者となる事が出來る嫌な事を言付けられた時刹付けてしま

へばクレネのシモンが十字架を拒むだと同じで嫌だと思ふ十字架を負ひエスの御伴をする覺悟がありたい。

次に十字架の生涯を送る我々の生活に大いなる勵となる事は慈悲深い愛の神、公平なる神の御取扱である。基督は殘酷な羅馬兵に十字架を負はせられてシモンも其分擔をした然し我々の十字架はローマ兵が負はせるのでない父なる神が我々に置かせ給ふのである貧乏に生れるも蒲柳の身なるも亂れた教會に居るも或は愚痴ぽい親を持つのも皆神が愛を以て我々に負はせ給ふと思へば愛に滿ち感謝を以て負ふべきである、或村に人が丁年に達すると十字架を負はす習慣もあつた或一人の若者は自分の十字架が一番重いといつて村役場に至り彼此と輕さうなのを選んだ揚句これをと思つて脊負つたのが初め自分に負はされた十字架であつた、凡て何事でも人の物はよく見えるのであるが忍耐して己れの十字架を負ふて行く中に重さ減じ遂には無いより有る方がよくなる、卵より孵へり立の雛鳥には翼が重過ぎるであらう、然し大きくなれば段々輕くなつて來る、これ我々の十字架の如くである、草津に居るミスマツリードといふ英國婦人は先頃住宅を作り癩病患者を劬勞つて居られる。人が身震をする事も樂しみになり貴いものとなる、かく我々も十字架の趣味を感ずるに從ひ苦痛の十字架も快樂の十字架となる、最後に申上げる事は我々がいくら勵んでも信仰は弱い唯我々に力を與へ給ふエスと共に凡て爲す事である、クレネのシモンは疲れたエスの十字架を負た然し我々のエスは疲れて居らぬ始終曉天の惠に滿てる新な勢を以て我等に力を與へ給ふ、エスは「凡ての事に勝得て餘りあり」といはれた、故に我等基督の力を信じ各自に授け給ふ十字架を日々に負ふならば頓て榮光の冠を得るに至るであらう。

（第十一回夏期女子修養會講演梗概）

基督と婦人

廣岡浅子

（彼得前、三〇一―七參照）

今日婦人問題は日本に於けるのみの問題でなく、世界を舞臺とした問題になつて到る處に論ぜられて居るのでありますが、我國では未だ婦人に依つて論ぜられたものが一つもないのであります。男子は昔から此の事に就ていろ〱論じたり研究したりして居ります。しかしそんな時代は最早過ぎ去らなければなりません。今日は自分の事は自分で考へ自分で處置しなければならない時代になつて居るのであります。畏くも昨秋の御大典の時には　皇后陛下の御座が　陛下のそれと並べ置かれたと承りました。之は我國に於ける、婦人問題に一進歩せる解決を與へられたものではありますまいか。私は一夫一婦の大倫を上から御示し遊されしものと有り難く拜察して居るのであります。かゝる思召に報い奉らんが爲めには私ども婦人は大いに覺醒し大いに發展すべきであります。にも拘はらず我國の婦人の西洋の婦人に比して未だ〱眠つて居る樣に思はれます。私は事情あつて早くから商業界へ身を投じ自ら東奔西走した者でありますが、其間常に感じた事は婦人の受ける壓迫であります。其壓迫は今日益々盛になりつゝあるのであります。しかし幸な事に私は六十一才の時に基督の敎を聞き六十八才になる今日迄絶えず苦心し導かれて信仰に進むの光榮を得、聖書を讀んでは心を強くすることがあつたのであります。昔から聖者、賢人、宗敎家、哲學者其れ〱婦人に對して意見を述べて居ります。しかしどれも私には不滿足であります。支那では云ひます「女子と小人養ひ

難し」と又「婦人は知らしむべからず依らしむべし」なんど云ふ失禮な言葉でありませう。此所らが東洋人の後れを取つた重な原因でありませう。印度に於て釋迦は女子は蛇の如き罪人と申て居ります。女人禁制の場所がいくらあつたか知れませぬ。實に聞くに忍びない話であります。日本はこれらの流を酌んで立ちました。故に女子を人として國民として取り扱つては居りませぬ。益軒の書いたといはれる女大學の如き女子の最も重んずべきものになつて居りましたが、あれを若し女と云ふ字と男といふ字と取り代へたならば、どうでありませう。男子は一日も默つては居なかつたでありませう。かゝる事に就ては私が此所に繰り返さなくとも福澤翁の言で十分であります。ポーロの如きはクリストの御弟子の中に二人とない聖者であり學者であり德望家であります。ギリシヤの哲學を修め、ローマの法律を學び、ユダヤの宗教を研究して、キリストに見え、人々の中に立つて最も雄飛した務を果された、實に批點の打ち所のない人でありましたが、此の人は終身獨身でありました。其時代として必要であつたかも知れませんが、これ丈はどうも感心が出來ません。從つて其言に不當なものがあります。今讀んで貰ひました書の記者ペテロになりますと、これは夫人もあつた人で其言も餘程公平に見られます。のみならず世界古今を通じて金言とすべきものがあるのであります。「夫なるものよ、女子は弱きものなれば愛すべし道理あれば妻の言にも從ふべし。」しかしなほ其言葉の中に流石男子だと思はれるもの、足りないものがあるのであります即ち六節で私どもとして見逃すことの出來ないものであります。

しかし、ナザレのイエス、キリストに於かせられては四福音書を幾度繰り返して見ましても、女にかくあれとの御言葉は一つも無いのであります。こゝが即ち神なる所以であります。神なるキリストより御覽になれば男子も女子もないのであります。こゝに來て私の長年の思ひが無意味でなくなつたのであ

ります。非常な心強さを感じる樣になつたのであります。即ち二人の人間が神の前に結婚した時に二人でなくつて完全な一人となるのであります。この一體は人これを離すべからずといふのであつて、實に神でなくつては出ぬ言葉であります。人としては共に同じものを與へられて居るので、神はわが如く完くあれとのみお求めになつて居ります。男子が豪いとも女子が豪いとも決して仰しやつては居ませぬ。更に考ふべきは夫のサマリヤをお通りになつた時にあつたヤコブの井戸の傍の話であります（約翰傳四章）キリストのなさり方は大いに研究すべきであります。彼女は五人の夫を持つた聞えのよくないものでありました。それでもキリストには彼女の中にある神より賜はりし靈がお見えになりました。これを清めてやれば立派な人間に立ち歸ることである。かう御覽になると、早速未だ他の誰れにもお話しになつた事のない深いものを彼女の爲めにお話しになりました。旅の疲れも飢もお忘れになる程熱心にお話しになりました。彼女は忽ち夢から醒めました。醒めて主をメシヤなりと叫び村人の多くを主の前に連れ來りました。此れは何を意味して居りませう。天父は私共の靈を清め人間としての意義を悟らしめやうとなさいます。これをなし遂げる爲めに世に下り給ふたのがキリストであります。キリストは其の指命によつて汚れたる女を救はれたのであります。女に取つて如何なる名譽でありませう。彼女は必ずよき弟子となつて主の爲めに働いたことゝ思はれます

又芝居や小說によくあるマグダラのマリヤの話（ルカ傳七章三六―五〇）に就て深く考へて見ませう。マリヤは七の惡鬼を持つたものとありますが、今日で見れば藝者の樣なものでありましたでせう。其家には常に多くの遊治郎が出入して居つたやうです。マリヤはその腐敗した男子を通して一般男子をいやなものつまらないものと思ひ込んで居たらしいのです。所が或る時シモンの家に食し給ふキリストを見ました。一寸其時に彼女の心に響いたものは「何と

いふ尊い御姿なんだらう」といふ思ひでありました。男子の中にもあんな立派な方があるのであるか、あゝ神でなくて何であらう。マリヤは我が中の罪に責められて立つても居ても居られなくなりました。我も人であつたのに今迄なすべからざる惡をなしつゞけて來た。アゝと人目も憚からず主の足許に走り込んで接吻し悔改の涙を注ぎ髮を以て拭ふたのであります。しかし今迄男子をくだらぬ者と思ひ込んで居つた彼女が、神の如き主の姿を見たといつて、即座に淸められたとは思はれませぬ。マリヤの主に對する愛の中には、なほ汚れたる愛があつたらしいのであります。見えざるを見給ふ主は之を知りて憫れみ許して導かれたのであります。そして遂に神より與へられてあつた、汚れに掩はれてあつた、靈を引き出し磨き上げて淸き婦人に迄導かれたのであります彼女は遂によき弟子になりました。ゲッセマネの祈りの時も、十字架にかゝり給ふまで、終りまで主に從ひ、御墓をまで見屆けて歸つたのはこの婦人であります。主の爲めに持てる寶を捧げたともあり、主の甦は彼女に一番早く現はれたともあります。いかにマリヤの上に主の特別なる恩惠が殘されてあつたかゞ思はれるのであります、今や十二使徒と並べて損色なき迄に發展して傳へられて居るのでありますが、彼女の甦こそ實に大なる奇跡と云ふべきであります。しかし今日もなほ生きて働き給ふ神は常にこれを爲さんとしつゝあるのであります。今日も女子は弱いものであります、故に男子の前にひざまづきます。此所が危險なのであります、男子はさう女子より進んでは居りませぬ、進んで居つて欲しいのでありますが進んで居りませぬ、主に迄はとても行かれませぬが主に似た人がほしいのであります。然し今日の男子は自分の前にひざまづく女子を陥れるより外に爲すべきことを知りませぬ。男子が女子より先に醒めて主の如く淸く高くあつて女子を導いてほしいなどとは今日の日本に於ては大なる空想であります。ですから私どもは、をこがましくも、今もな

ほ生きて働き給ふ主の御前に直接にひざまづいて、聖別を希ふより外はないのであります。罪深き身も必ず許し清め給ふと信じて行くべきであります、私どもは大いに目を醒して生ける主の許に行くべきであります。さうして清き正しき婦人として立つ決心を固うすべきであります、かくなれば決して多くの男子は壓迫しませぬ襟を正しうして迎へるのでありませう。それでもなほ男子の態度が惡いならば此度はこちらより主の愛を以て彼を聖別すべきであります。彼を過らせてはなりませぬ、一生の友として導くべきであります。「ノー」といふ言葉を以てはねつける丈が能ぢやないのであります。我國の今日の墮落、腐敗は女子の手で清めやうとすれば實に容易なことであります。

主が今日も生きて働き給ふことは空想ではありません私どもの信じて疑はぬ所であります。さればこそ私どもの樣なものでも、心から御前にひれ伏して希へば主は其手を以て私どもを聖別し新しき生命を賜ふのであります、この難がないならば何を讀んでも何を聞いても決して今日の社會は清められはしませぬ。今日の氣運は少しでも早く主エス、キリストを知ることによつてのみ救はれるのであります。頭に知るのみでなく、祈りに依つて、神氣によつて、一日一日聖別され進歩して行く樣になれば婦人の位置は確かになり立派に世界に名をなすやうになれるのであります。歐洲の戰爭國に於て婦人は今日ざましき活動をなしつゝあります。更に戰後の手筈も出來て居るやうであります。かゝる場合に立つて日本の婦人は立ち後れぬ丈の用意が出來て居りますか。後ちの平和の爲めの働きが準備されて居りますか。私どもは早く今日の社會の罪を知らしめる爲めに主の前に眞に、ひれ伏して靈を受けて立たねばならぬのであります。男子の過失つ所を淸めてゆかねばならぬのであります。これが私の熱烈なる願ひであります。其の爲めにかゝる題を取つてお話したわけであります。（第十一回夏期女子修養會講演梗概）

我國に於ける社會救濟事業

高田慎吾

修養會に於て日本の社會狀態に就て話すやうにとの御命令であつたが餘り範圍が廣く且つ時間も許さないので私のかねて從事して居る慈善事業に就て申述べたいと思ふ。

扨て我國の救濟事業に就て話す前に救濟事業の意義に就て申す必要がある、一般に慈善事業といへば愛の事業、同情の行爲である故に慈善事業が不具、癈疾、鰥寡、孤獨、疾病、幼弱者等の如き悲慘なる境遇に在る人に對して行はるゝは事業の性質上當然の事である。然し今日の救濟事業は單に貧窮に陷りたるを救ふのみが、其目的でない。又一、二の人に對する篤志家の慈善行爲の如き狹い範圍のものばかりでもない。救濟は愛の事業なれば先づ窮迫の境遇に在る人に其手を下すは自然の順序であるが、苟も人を救助せんと欲せば單に金錢を與へ若くば物品を給することを以て滿足すべきにあらず。何故に貧困に陷つたかその原因を探り根本的救治の方法を講究するにあらざれば慈善は却て人を害ふの弊がある。中世歐洲に於ては教會が盛んに救濟事業を行つたかそれと共に弊害を齎した事もある。今日の救濟事業は愛に加ふるに科學的智識を以てするのである、一貧困者の救濟に當つても其原因を研究して見れば多くの場合に於て其原因が社會に存する事を見出す、從來は一二篤志家の隱れた慈善事業であつたのが今日は進んで社會事業となつた單に個人の窮狀を救ふに止まらず社會救濟となつた、要するに現今救濟事業は貧を救ふに止まらず豫じめ貧を防ぐにある。

次に現今我國に於ける救濟事業の狀態をいふ前に

明治以前の有樣に就て少しく御話して見たい、私は一昨々年米國に參つた時あちらの救濟事業の泰斗ともいふ可き人が日本に昔時救濟事業があつたらうか基督教國でなければ同事業はない筈であるといつた事があるが蓋し誤りである昔に於ても今猶模範とするに足る救濟事業が行はれた、唯維新の際舊來の制度が其大部分は毀はされてしまつた、併しその爲め將來の救濟事業を企てるに於ては却へつて便利の點もある。

我國に於て所謂救濟事業として立派に行はれたのは推古天皇の時代である其頃厩戸皇子は難波に四天王寺を建て施藥院、療病院、悲田院、敬田院を置かれた此四院こそ佛教傳來以後所謂組織的に行はれた救濟事業で是に則り地方にも悲田院、施藥院が建てられ貧民撫育の道を開かれた、これ宗敎的理想に基て出來た大なる物の一つてある。聖武帝の后、光明皇后も亦施藥院悲田院の兩院を建られた、元亨釋書をみると皇后は千人の乞丐の垢を去るべきことを心願して九百九十九人を終へ給ふた後一番最後に身體中腫物の出來た乞食が出て來て膿を吸つて下さるやうにと願つた處が后は其望み通り爲し給ふた時彼の乞食は忽ち姿を變じて大光明を放つたと記されてあるが皇后が如何に救濟事業に力を盡されたかが知られるのである、又和氣の廣虫は市中の捨兒を拾ひ悉く自分の養子として育てた、僧春朝は獄中の人を憐み自ら罪を犯して牢に入り犯人と共に居て佛道を傳へた、德川時代には加賀藩前田綱紀は非人小屋四十五棟を建て二千餘人の乞食を收容したので加賀に乞食がないとまでいはれた程であつた、救濟事業中乞食の救濟ほど困難なものはない、外國に於ても最も困難なる事業の一と數へられて居るベルギーにもスイスにも獨逸にも乞食の收容所があるが中々六ケ敷いと云ふ話である。然るに日本では加賀の殿樣は此問題を遠の昔に解決し成功して居る、德川時代末に當り松平樂翁公のやり方の如きは西洋のそれに劣らず少しも辱かしくない、天明の頃天災地變の爲世

の中は困つた其時公出て見事に町の規則及び設備を改正し町の費用を節減し穀類を蓄へ積金を爲し不時の用に具へ、或は貧民孤兒の恤救費に充つるの制度を立てた又人足寄場を設けて出獄人や無宿者を收容し業務を授け之を感化した樂翁公は物質上の救濟のみならず又精神上の救濟に努めた即ち是等の救護所に於ては日々心學童話を話してきかせられた、又公の七分金は明治七年東京市に引き續かれたが百七十萬兩に上ぼつて居た東京商業學校の前身なる商法講習所や東京市養育院の如きは此金で出來た昔時は今日の如く經濟界が複雑でなかつたけれどそれ相應の救濟事業があつた。我々は救濟事業といへば直ぐ外國の事を調べるが日本の過去に於ても美しい事が行はれて居つたのである、今日我が國の古き制度は餘り殘つて居らない然し秋田縣の感恩講の如きは維新以前に起つたものである、秋田市を中心として十七箇所ばかりにある、又各縣の罹災救助基金は義倉制度の精神を以て出來たものであらう。

然らば我が國現今の狀態は如何といふに諸姉に分り易くする爲左に表を掲ぐ、

公私救濟事業

事業		數	收容又は救護數
感化	公立	二六	一、四五四
	私立	二九	五八一
	計	五五	二、〇三五
育兒	公立	一	一、一〇二
	私立	一三三	六、一二五
	計	一三四	七、二二七
保育	公立	一	一六
	私立	二九	二、二八九
	計	三〇	二、三〇五
養老	公立	一	五四
	私立	二一	四四二
	計	二二	四九六
施藥救療			延人員
	公立	七	一〇七、七七九
	私立	七三	三、五〇八、八八九
	計	八〇	三、六一六、六六八

		救助人員
窮民救助		
公立	二	四二
私立	五二	九、〇二七
計	五四	九、〇六九
授産		延人員
公立	一	四、三〇七
私立	二二	二三〇、〇二五
計	二三	二三四、三三二
職業紹介		
公立	三	三、五四三
私立	二〇	二八、九三三
計	二三	三二、四七六
宿泊		延人員
公立	二	一二、九九五
私立	一八	二二四、六五三
計	二〇	二三七、六四八
盲唖教育		
官立	二	三九六
公立	五	六四三
私立	五八	一、七二六
計	六五	二、二六五
貧兒教育		
公立	一四	六、八三七
私立	三四	四、一四一
計	四八	一〇、九七八

子守教育		
公立	六	四三一
私立	七	二五一
計	一三	六八二
其他特殊教育	一〇	七二五
以上の分類に入り難き事業	五五	二、〇二三
總計		
官立	二	
公立	六九	
私立	五六一	
計	六三三	

法規に依る救助

	年末現在
幼弱者	一、四八六
棄兒	一、六一六
老衰者	二、七一九
疾病者	二、〇六一
癈疾者	一、二六八
行旅病人	新 七、七七一

右の内少し附加すべき點も申述べたい、まづ感化院は明治卅三年及び四十一年の法律に依り各府縣に

設置されたが然し財政上の都合により實に微々たるものである。保育所とは貧民勞働者の子供を晝間預かり保育する所で我々は之を大いに奬勵したいと思ふ主として都市に必要であるが農村にも亦必要である、田舍では農作に忙がしいと親達は子供を放つて畑に出てしまふ後に殘された子供は溝に落ちたりする事がある、保育所と子守教育は大いに關係がある職業紹介所は無職人に慈善的に職業を紹介する所であるが看板のやかましい所謂高等職業紹介所の如きは職を與へることは誠に尠なく金を絞る許りである是は將來の勞働者問題に關係あつて貧民を救ふ、積極的救濟事業の部類に屬す。子守教育は外國にないかもしれない、子守になる位の者は貧乏な娘で何も分らないから彼等に赤坊を任せ放す事は實に危險で赤坊に對し惡影響を及ぼす、故に一面には子守自身の爲他面には赤坊自身の爲に此教育は必要である、紐育では嬰兒死亡數が多いので之を防ぐ爲め所謂子守教育の如き事が行はれて居る。十三才以上の女子を集めて赤坊の守の仕方や牛乳の飲ませ方など育兒に必要なる事柄を教ゆる是等の小さき生徒はやがて母になるのであるが貧乏故充分なる教育は受けられないそこで十四五才の内に子守教育を授けるの必要なるを思ひ市の醫師及び看護婦等は"Little Mothers League" なる會を設けて此事に力を盡くして居り中々好成績を擧げて居る、英國では育兒の事を小學校の科目に入れて居る日本に於ても福島縣及び長野縣の小學校二三ヶ所では子守教育を開いて居る、又特殊教育中には伊澤氏の吃音矯正學校、石井氏の白痴院等を含んで居る。以上の如き公立私立の救濟事業に要する費用は三四百萬圓である但し免囚保護事業は擧げてない此三四百萬圓と云ふのは西洋に比しては實に纔かである社會の爲め實に大切な事業をこれ程小金にて經營して居るのである然るに我が國烟草の消費高は實に八千五百萬圓に達し人口六千萬とすれば一人一圓餘りに當る。我國現在の救濟事業はこれで足るとすれば國家の慶事であるがこれにて滿足

すべきでない我々の爲すべき事業は澤山ある、現今婦人の仕事は益々増加し親は子供を家に殘して働きに出て行く其後に殘された小供を世話する保育所の如き或は我國には二千の不良兒童を救ふに止まるが實際は三萬五萬の多きに達する不良少年少女が居る故不良兒の保護事業はまだ澤山出來ねばならぬ或は大森夫人の活動されつゝある遊戯場建設の如き或は最も困難とせらる癩病患者救濟の如き種々の事業の發達を要するのである、然るに此等の事業をなす上に何が最も必要なるかと申せば資金であらう然し私に云はしむれば金も中々大切である、が適當な人物を得る事が最大困難である、眞の救濟事業は社會の實狀に通じ科學的智識を有し且つ宗敎的信念より來る愛を以て働かんとする人を要するのである、勿論此事業をなすには專門家と篤志家とあつて共に社會救濟上の智識を持ち兩者相助けねばならぬ、然し其智識を與へる機關が少ないので內務省にては同事業に係はる人の爲講習會を度々開く又佛敎大學にても其事業を一科目として居る處がある人材を得る事は中々困難である故に諸姉の如き敎育を受けた宗敎家が此救濟事業に手を出さるる事は甚だ幸である又我々大いに奮發努力せねばならぬ事は日本の救濟事業は外國人の助けに依つて居る、基督敎徒に依つて經營さるもの約八十八の中外國人又は外國の資金に依り經營さるゝもの四十四、天主敎徒により經營さるもの二十ある殊に人の最もいやがる癩病患者救濟の如きは公立を除き日本人の經營するものでは日蓮宗の僧侶綱脇師が身延山麓でするのと目黑の大塚氏のものゝ外は皆外國人經營であるミスリデルの回春病院は世の知る所であるが同じ熊本にあつて世に知られず若き婦人ながら自分自身患者と共に生活して救濟に努めて居る待勞院と云ふのがある、御殿場にある一病院の如きは佛國の宣敎師ヘェストウイット師が今より廿七八年前東海道傳道中時々癩病人に逢ひ同情をよせて居たが或日御殿場の町はづれに一婦人の癩病患者の盲目が小川の上に板を渡し小屋を結び村

民の與ふる一椀の飯と水をもて露命をつないでゐるのを見て之を憐み收容したのが今日の神山復生病院の始まりである、我國此種の病院は公立を併せて纔かに十ヶ所でしかも私立の多くは外國人經營であることは一方に於ては實に感謝の念に堪えないけれども我々の面目上如何であらう世界の一等國東洋の獨立國とはいひながら救濟事業に於て獨立國であらうが善をなすに國の境はないが我同胞の事は我々に於て結末をつけなければ實に不甲斐がないではないか何卒我國の救濟事業を盛んにし共同生活を營む上に愛の事業として我々の眞心を鋭敏にしたいと思ふ、光明皇后の話は寓話かも知れぬが深い意味のある事のある事である、馬太傳二十五章に「いと小さきもののの一人になせるは是れ我に爲せるなり」とある又ピーボデー曰く救濟事業と宗教家の仕事の關係は一つの仕事の二つの分れてあると、かく救濟事業は宗教的愛の事業で諸姉をおいてはなすべき人何處にあらう、

何卒各々其境遇に應じて直接間接救濟事業の爲め御盡力を仰ぎ度いものである。

（第十一回夏期女子修養會講演梗概）

生命の死活

牧師　今井壽道

約翰傳十二章二十節―三十三節參照

今回の夏期修養會の標語として皆様も御考へになつて居る言葉は我々を忠義な基督の弟子となすには必らずなくてならぬ語である。是は四福音書中四ヶ

所に記されて居る。第一は馬太傳十章三十九節。此場合は如何なる前後の關係から御教へになつたかといへば基督は此時十二の弟子を多くの中から召されて此人々に福音を述べ傳へる天職を與へられた。是を遂行するに當り決して容易に爲し得る事でない、充分に困難を豫期してかゝらねばならぬ。樣々の內外の惱、反對、迫害を考へねばならぬ、其故十字架を負つて基督に從へば結局其語に當篏まる。第二、馬太傳十六章二十五節、馬可傳八章二十五節及び路加傳九章二十四節の三ヶ所で是等は同じ記錄であるから一つと見れば基督が人の子は長老祭司の長、學者達に殺されて三日の後に甦る事を公言せられたのをペテロが止めて諫めやうとした。其時エス、ペテロを戒めて後弟子達に向つて「若し我に從はんと欲ふ者は己を棄て其十字架を負て我に從へ、そは生命を全うせんとする者は之を喪ひ我ため且福音の爲に生命を喪ふ者は之を得べければ也」と仰せられた。これ主の召により基督に仕ふるに當り、主を信じ主に從ふ目的は分つたが、その道行を示す爲めに仰せられたのである。第三、路加傳十七章二十五節にある。此所はパリサイの人がエスに向ひ神の國は如何にして何時現はるるやと尋ねた時に神の國は此處に見よ彼處に見よといふにあらず、思ひ寄らぬ時に神の審判に現はるるものであるとロトの例を引いて此世の終りを精神的に語られた。第四、約翰傳十二章にはエスの公の生涯漸く終りに到達した時ギリシャ人の前に於て言はれた言葉である。以上四ヶ所を詳しく研究すれば少しづゝ違はあるが、要するに眞の命の死と生に於ては自己の命を保たんとする事は却つて失ふ事であり捨てんとするのは却つて受けるといふ意味は四ヶ所共何れも同じである。如何にして基督は公の生涯の大切な場合、殊に己の感動強き時此語が繰り返へされたかといふのは深く考へる場合大切な心の態度である。基督は何度も繰り返へして此眞理の大切なる事を我々に印象さす爲、覺えさす爲實行さす爲に繰返へされたのである。基督が何故に

此世に現はれ給ひしか又其事業の目的は何であったかと問へば、今更申すまでもなく人の靈を救はんが爲めで、此世に在し時は中風、蹇、盲目等樣々身の惱を癒し給ふたが是等は基督の働としては極めて僅かなことで、眞實の基督の仕事は我々の靈を療し力を與へる事であった。基督の現はれしは靈の療と救とを形に現はしたに過ぎぬ。主は人の病を療すに別に困難を感じた事はない、既に死して四日經た人の死骸にさへも命を與へる事はエスに於ては六ケ敷いとは思はれなかった。エス肉體を療やすに困難は無いのに人の靈を療やすには大いなる考を要したといふ、何故困難かといへばエスの御力は凡ての人の靈を生かすに容易な力であって神の愛限り無き力を以て死した靈を生かす事は手易いのであるが、只救はれる人の心が主の心と一致せねばならぬのであるから、其の點が一つ困難であった。決して基督の靈の力が足りないのでなく、人間の方が基督の御力を信せず、主の仕方に從順でなく、道を盡くす爲めに充分しないからである。要するに人間は自分で己の命を捧ぐる意志の決する迄、主の力は其處に働く事は出來ぬ。元來世の中は死を厭ふけれど死は何れの場合にも命の母である。自然界を見るに木の葉の朽ちるのも、庭の草木枯れて土に返へるのも其他種々目前に現はれる死も、これ皆後の命が增し擴がる爲めである。人の命は實に他人の死に依り養はれ、死により生く、これ慥かな事實で此世界に命が殖えるのは死あるが故である。如何に命が進化するかといへば前の死が後の生命を出すからで死は實に命の母であり、守である。人間は自分に是を思ひ出す事は出來ない。自分は此子を忘れ、自分には何か他の人が皆己の爲めに死ー自分を養つて吳れるといふ考に捕はれ、不知不識の中に此考になり自分の死が他人の生命なる事を忘れる故、生命を殖やす事も向上さす事も出來なくなる。主世に現はれ苦を受けて猶十字架上に死なれたのは汚れた世界より限り無き生命が多く生み出されん爲であった。一粒の種地に落ちて

朽ちずば善き實を得ずと仰せられて十字架を御厭ひにならぬ其故度々此の標語を繰り返へされたのも不思議ではない。

生命に二通りの取扱方がある。一は病人らしく取扱ふ事。床の上に身を横たへ凡ての事は他人にして貰ふ事である。人間に己を捨てぬ人は病室に寐て居るのと同じで凡ての世話をされて辛く存在して居る樣なものである。此病室より一歩も出ず何時迄も居るならば弱りに弱つて遂に死に至るのは明かである。

主が十字架の道を以て我々を救ふのみならず己を捨てる事を敎へ給ふたのは病室に居らず外に出て働き健全な人になれといふ事である。病室の外即ち自己の外に出て自己を他人に捧ぐる爲めに活動して力を消費する精神は靈を健全にして行く取扱ひ方で主は之を勸め之に救を約束なされた。然し此失ふといふ言葉に危險な意味がある、標語の初めの方は己の快樂の爲めに失ひ實に無益な捨て方であるが次に「我爲めに命を失ふ者」とあつて「我が爲め」は「失ふ」の說明に大切な力を加へてある。生命を何處へ捨てるか其捨て場所は澤山あるけれど主の爲めに捨てる事が唯一の道である。故に己の生命を捧げて之を完ふするやうに努力せねばならぬ。人世の行路には犧牲の祭壇がある。然るに現代の世の傾向は如何であらう。人間は健康の保存に長命に隨分熱心である、新聞を見て驚く程賣藥廣告が盛んで其廣告に興味を有つ人も亦多い。或は何の靜座法、腹式呼吸等といつて人の注意を集めて居るのは事實である。醫學或は其他の發達により伸ばすべき生命を伸ばすのはよい、然し何の爲にといふ事が一問題である、我々の生命の捨場所は主の爲といふ祭壇である樣に長生の目的に依つては得る事が却へつて失ふ事になる。其長壽の切望が其成功熱と快樂主義とに結び着く時には考へねばならぬ結果を來たす。我々の命が五年十年伸びても世に何の利があるであらう、己の快樂の爲に命を長くするは病床の上に出來る丈長く寢る事

と同じで世の爲めには無益で死に劣る。故山室夫人に献身的の生涯がなかつたら尙ほ長生が出來たであらう然し若くて世を去らねばならぬのは他の多くの生命を呼び出す爲めである、自分を苦しめて他人より早く世を去ても誰として十字架の勝利と考へずに居られやうか、世の中に彼女が未だ生きて居ると思はずに居られやうか、我々は貴い犧牲の行はる時主の力を感ずるのである、我々主の爲めといつても直接主の傳道に努むるのみでない、主の眞理の爲め、主の愛の實行の爲めに戰ひ主の爲めに捧げるのは、己の生命を滿たし、又他人の生命を產み出す事である、各所に於て集めた經驗や智識も惠によつて得た富も生命も凡て之を集める時常に覺えて居るべき一事は己の爲めに使用するのでなく主の爲めに費すべく集めて居る事を思ひ必要の時には主の愛と潔と正との爲めに捨てる覺悟がなくてはならぬ。是は我々が庭に出て草花の種子を集めるがこれは其種を袋に入れて仕舞ふ爲めでなく地面に播き腐されて後又綺麗な花を咲かす爲めである、一昨年の冬歐洲の戰爭が始まつて間もなく英國のある新聞に一つの判じ繪が出て居た、一人の鎧武者が刀を拔いて居る前に凄い樣子の怪物が立つて「汝は凡てを失へり」とある其幼い武者は「然し然れども我は靈を失はず」といつて居るこれベルギーと獨逸を表はしたもので、ベルギーは凡ての富も快樂も取り去られたけれどベルギー王により代表さる一の言葉はベルギー國は靈を失はずといふのである。

我々は眞に命を得んとするには凡て外の命を捨てゝ行かなければならぬ。神は我々に力を授けて自分と他人の救を果させ給ふのである。

（第十一回女子夏期修養會禮拜說教梗概）

我主イエス、キリストに由て
勝を得しむる神に感謝す。
前十五ノ五十七

重要なる婦人の働

立志たき子

日本では教育界と云ふと社會の中に全く別な一範圍となつて居て、其中で教へられる事と社會で實行される事とは相容れない。時々は正反對の事さへあります。何方の國でも政治家、教育家、軍人、實業家、其他何々と異る任務に依つて小社會を形造つては居ますが、其小社會は別々であつて又共通な所があります。故に教育家が不正とする事は政治家も軍人も不正と認めます。一方で罪惡と思ふ事を他の方では日常事として行ふ樣な事はありませぬ。然るに日本では教育界で稱へる事を社會へ持出すと頭ごなしにされる事がある。基督信者も教會を一歩踏み出したが最後、信仰に悖る事をせずに通るのは容易の骨折ではない。一般に智識の程度が低くて骨が折れるのなら祈禱と忍耐と努力とで導くと云ふ樂が憂の中にもありますけれども、今の一般の智識は宗教界より後れて居るとは決して申せませぬ。横道へそれて却つて進んで居ります。そこで教育家の學説も、宗教家の信仰も、机上の空論とか、迷信とか、自分等の眼前に都合の惡い事には勝手な斷案を下して排斥します。さうして其排斥する人が、無學者でも敗德漢でも、一家族の上に立つ人であると、其家族は雷同する。又社會の高地位に居る人なら、それに從ふ者は御無理御尤もで贊成するから、學校は教育の原理も何もそつちのけで社會の要求に應ずる者を造る事にのみ勉めて居る。其くせ家庭を改良して良き國民を造り社會を潔くするのは婦人の任務であると云ひますが、社會の要求に依つて左右される樣な教育の仕方で、如何して社會を改良なし得る樣な婦人を

造る事が出來ますか、基督教の學校は未だ全く其主義を曲げずに居ると云ふもの丶、洪水の樣に日本人を押流して行く思想の上に立つて居る事は非常な力を要します。學校或は教會を離れて社會と名付くる濁流へ泳ぎ出して一堪りもなく溺れてしまふ者、又は數年間よく支へて終に濁水中に見へなくなる者は共に悲しむべきものでありますが、近年學校或は教會へも折々濁水が流れ込む事あるのは更に寒心すべき事と思ひます。只神を信じ其御恵を感謝すれば信徒たる任務がすむ譯ではありますまい。天は己を助くる者を助け給ふと聞いて居ります。今、水の低地に流れる樣に虚僞、華美、卑劣、淫逸に傾きつ丶ある人心を喰止めるべく努力しない者、或は己も濁流に流されて居るのを知らずに居る者は、基督信者として己を助ける者とは云へませぬから神の御恵を受くべき者ではありませぬ。吾々の智恵と力のあらん限り所信の爲めに働いた上其結果の如何を神に任せ奉るのが信者の安んじして居る所と私は信じます

前に申した通り教育界と基督教界の人々は一般社會から別になつて居りますから、教界以外の事の知られて居ないのは其筈でありますが、私はそれを皆樣に知つて戴きたい。何故なら戰爭をするのに敵の有樣を知る事は第一の必要で、敵を知らずに戰爭は出來ませぬ。私が敵と云ふのは即ち罪惡の事で、之を知るには社會の裏面を見ねばならない。人の私行を云々するはよくない樣ですけれど、男子が公務はよく勤めても内行が修らないで醜聞を洩し、家族を苦るしめて居るのを見ぬ振りしては居られませぬ。家族を救ひ其男子に罰を加へるべく適宜の法を取るのが、既に社會を淸潔にする道であります、故に爵位は高くても資産はあつても學問、技倆共に秀でゝ居ても、内行のよからぬ人は男女の別なく排斥せねばなりませぬ。然るに日本では長い習慣で男子の不身持には誰も驚く程神經が鈍くなつて居るので、男子でさへあれば道德や教育を談ずる資格のない者でも女子に窮屈な道德を强て己が犯した罪の十分一か百

分一の過を女子がすると容赦しませぬ。此種の男子が女子の發達を嫌ふ譯は解り切つた事で、こゝに述べる要はありませぬが、新智識を有する信者の男子が女子の向上發展を望むと云ひながら、女子の立脚地は家庭で、家庭を離れては女子の價値はない。女子は天性内に居る樣造られてあるとか、何とか云ふのを聞くと、日本人の思想の西洋人に後れて居る事の甚だしいのを思つて心細く感ぜざるを得ませぬ。西洋の學者も百年二百年前には、今、日本人が云つて居ると同じ樣な事を云つて居た事は、歐米教育の歷史を讀んで見れば解ります。併し彼等が女子に對し偏見を持つて居たと云つても、古來基督教を以て養はれ來たのですから、儒教、佛教、武士道などで育てられた者とは違ひました。女子が其種族と共に段々發達して自己の意志と理想を確言なし得るに至つた頃には、之に對し公平な觀念を持つ男子がありました。さうして發達の道が開かれると、女子は長足の進歩をして、今歐米に女子を開放した事を悔いて居る者は一人もありますまい。然るに日本人は如何にしても女子を開放する決斷がつきませぬ。無教育では役に立たないから教育をする、けれど從來男子が持傳へて居る權利は一つも分たない、自由も與へない、さうして有らゆる階級の男子に合ふ樣な女子を學校で造り出して、それも十七八歲までに仕上げねばならぬと云ふのですから、斯んな無理な註文はありませぬ。不都合が續出するのも當然であるのに、それを悉く女子の缺陷に歸して益々無理な訓令やら窮屈な規則を出す、けれども訓令が彌々出れば彌々註文に違ふ女子が出來る、規則が窮屈になればなる程放縱な者が增して始末に終へない、元來家庭を作る事が日本人が一般に稱へる程大切なものならば其半分を持つ男子の爲めにも重大な任務でなければならぬ。然るに夫の責任、父の義務、男子の道などと云ふ事を聞いた事がない。只女子にのみ良妻賢母たるべき事を説き聞かせ、妻となり母とならなければ世の中に無用の者の如く教ふるのは不條理であ

ります。さうして一家を支持して子女を養育する全責任を婦人に負はせて權利は悉く男子の手に握つて居るのですから、物の解る婦人が滿足して居る筈がありませぬ。不滿の度も智識伎能の備はつて居る婦人程強く今や有らゆる階級と年齢とを通じて女子の不平不滿は非常な點に達して居て、中には自暴自棄になつて居るものもあります。上中流の婦人が舅姑に使役され、放埒な夫から忍び難い侮辱を受けて氣も狂はんばかり煩悶しても訴へる道のない事、或は中下層の婦人が育兒と家事の爲めに過勞して心身衰弱して、休む事も滋養食物を取る事も出來ず、天壽を縮めて居る有樣を西洋人に了解させたら何と思ふでせう、右の樣な事が神が婦人の爲めに定め給ふた運命とも天命とも私は思ひませぬ。又其生活が獨身の婦人より幸福であると如何して云へますか。

日本の社會を改善して婦人に滿足な生活をせしむる事は學問あり見聞廣く言行に表裏のない同情の厚い婦人達の共同努力に待つ外はありませぬ。而してそれは誠に重要な光榮ある業で其爲めに一生身を捧げるのは女子と生れた本望です。舅姑や夫に事へないでも子供を育てないでも人たるの本分は立派に果すもので神は必らず女子の赤心を受入れ給ふと信じて疑ひませぬ。（第十一回夏期女子修養會にて）

各支部及會員諸姉へ

一「女子青年界」は我女子青年會聯合の鏈鎖を以て任じ、成るべく各地青年會の狀況を掲載し、相互に各地の模樣を知悉し、氣脉を通じて相聲援し、相勵み相進みて、本會の發展を期したく存候につきては、何卒各支部よりは細大洩らさず、時々の御狀況御通信被成下度御願申上候。

一又た、本誌は會員諸姉の所說所感詩歌其他をも掲載して、青年婦人の思想を發表する機關たらんことを望み候へば、誌面の一部分を提供して其ために致度候、勿論紙面に限りあれば、載否は編輯者の意に御任せ下さるの外なきも、幸に會員諸姉が御遠慮なく御投稿被下度希望仕候。

一會員及び講讀者諸姉にて御移轉或は御改姓の節は本部まで御通知下さるやう切に願上候。

日本基督教女子青年會本部編輯部

山室夫人の臨終

山室救世軍大佐夫人機惠子姉が病のために倒れられたことは吾人の痛惜措く能はざる所である、今年の夏期女子修養會に於て山室大佐講演の折故夫人につきて物語られました、聽くもの一人としてその眞實にうたれざるなく只管涙にくれたのであります、今いさゝか茲に大佐のお話に基き夫人の昇天に關する美しく清き事實を掲げて同夫人を偲びたいと思ひます。

母としての彼の女は、飽迄も子女を神からの預り物として、唯其の御旨に適ふ者となり、又御旨を行ふ者とならしめんことをのみ心がけた。六人の子供を枕邊に呼び最後の告別をした時にも、其の言ふ所は一言の榮擧利達に及ばず、唯神の榮と人の救とのために生くる者とならんことのみであつた。其の時の祈禱は「此子供等の兩親を導きて有用幸福なる生涯を送らしめたまふた御手に此子供等を任せ奉る、彼等をして己が才智によらず、神の力により世界最大のものなる愛の生活を營むものとならせたまへ」といふのであつた。而して不自由なる手に筆をとりて「神第一」としたため此主義をもつて我が亡き後の子供等を教育せんことを委托したのである。これ實に母としての彼女の覺悟、又心盡しであつた。彼の女が如何に救の確證(アッシューランス)に入りしか又如何に聖潔を得たりしか、その臨終は如何にも見事なものであつた。今日まで嘗て斯の如き死生を超越した高貴なる最後を見たことがない、死ぬる二日前の午後、良人に告別し、子女に告別し、親兄弟に對する感謝、先輩知人に對する傳言、ブース夫人への挨拶を述べ、「一々手紙をかきたいところなれどもそれはもはや適ひませぬせめて手型をなりとも」といひ、右の掌に墨をぬらせて之を白紙に印し、ふるへて手に筆をとつて「我が身ののぞみは主の十字架にあり」とかき、又「若し垂死の病人の云ふところに耳を傾けらるるならば、どうぞ然ういふて戴きたい幸福は唯十字架の傍にあります」と、かういふ遺言をしたのである。斯くて今ははや死をまつばかりの身にて、枕頭に坐する姪を顧みて「併しあなたなんかは手型は要らないでせう、死人の手型などもつて

居ると幽靈が出ると思つて氣味が惡いでせう」と冗談をいつたのであつた。所謂死生の間に談笑するとは此のことかと思はれて、今さら彼の女の覺悟のよいのに服したのである。實に彼の女の生涯は犧牲の生涯であつた。即良人のため子女のため軍隊のため殊に不幸なる同胞のため犧牲の生涯であつた。「私は年若くして早く神の召に從ふた故、最早幸福なる生涯を送ることが出來た眞に感謝の至である」と、彼女はくりかへして病床にて語りいでた。斯る神々しき生活をとげたる彼の女に永訣するに當り、今一度その献身の誓を新にし、必死に神と軍隊と同胞とのために働き、いつ彼世にて彼女と邂逅するとも恥しくない世渡をつゞけんことを覺悟するのである。

世の無常と云ふことを

辻村　清

はかなしや風ふれぬまのいてふ葉の
こすゑにしらむ有明の月

修養會にて感ぜし事ども

（一）

今　秀子

今年は圖らずも夏期修養會に出席せよと命ぜられ、餘り人中に出た例のない私は最初少しく恐怖の念に襲はれました。然し此又神の大いなる惠と感謝し喜んで參つた次第でございます。

あの閑靜な、夏なほ涼しきフェリスに於る七日間の修養は私の精神に偉大なる影響を及し今猶深く感謝いたして居ります。塵の世を打離れ愛に滿ちたる今まで知らざりし友々と或は語り或は祈りし七日間。聞くもの見るもの皆清く美しく此上なく樂しかりし七日間。嗚呼神聖なりし七日間。若し此世の天國はと云はれなば、あの七日間こそ適例と存じます。

さて私共は小學時代より共同一致の如何に大切なるかを教へられて居りますが私はこの修養會に於て痛切にこの事を感じました。昔より婦人は弱き者と社會より輕視されて居りましたがこの弱者も五人、十人、或は二十人と集つて共に事に當る時は實に恐るべき大いなる事業をなし人を益し社會を益するのであります。此の夏期修養會なるものが私共婦人に何程よき結果を與ふるかは今更ら云ふべき必要もありませんが私は初めて出席し深く感じました。斯く所々方々より集り、共に心を打開いて物語り、或は經驗ある先輩の心こめられし御說などを伺ひます時に、狹き心は廣められ「我も神に召されし一女子なり。いざ愛する故國のため幾分なりとも貢献せざるべからず」との念涌くが如くに出て、勇氣百倍して突進するの氣に打たれざるを得ません。私は此世に出てゝすでに二十年を經過いたしましたがこの七日間程有益な日はありませんでした。又かね／＼雜

誌などで聞及んで居りました諸先生に御逢ひいたし親しく御話しいたしまして心より嬉しく存じました。

たとへ一時間なりとも高き人格に接します時に知らず〲感化を受くる心地がいたします。又各支部の勇ましき働き振りを伺ひまして私共は神よりたまはりし才能を應用していくらも働けるものなることを感じました。

斯くて一日の暮るゝも早しと思ひながら一週間を過しました。つきぬ名殘りを互ひに惜しみつゝまた來ん夏を契りつゝ或は北に或は南に分れ、今は十日以前のたのしかりし日を追慕する身となりました。私の留守中に從兄が天國に移されしとき、其臨終に逢はざりしは實に殘念でございますが一方私の精神の生かされしを思ひ感謝いたして居ります。

今後私の力の及ばん限り彼の標語を守り大いに努力いたす決心でございます。

我青年會のため時も名も皆献げて盡さるゝ方々に心より感謝いたします、猶將來に於てこの會の大いに發展し神を知らざる者を光りに導き社會を益し引いては世界をして神の國たらしむるに至らん事を祈りてやまざる次第であります。只感ぜしまゝを斯く書き連らねました。

（二）

遠藤繁子

本年四月に始めて呱々の聲をあげた我青年會は此の一學期間を唯心の焦りと遽しさとの中に過ぎ去つた、そして其結果何の得る所もなかつた、私は是ではならぬ如何にかして其名の通り青年會として活氣あるものにしたいと神に祈り又種々の働きの方面に善き參考ともなる可きものを求めて居つたが今度其望を達し得た事を心から喜んで居るのである。

これ即ち修養會である今年の標語である、一學期間何故思ふ樣に働けなかつたか善き報告を齎す事が出來なかつたか考へて見るに私は基督の爲めに會の爲めに私の最善を盡して居らなかつた、私は基督の爲めに自分の生命をなくす程の献身的心が足りなかつた、否持つて居らなかつた、自分の爲めにと思ふ心が滿ちて居たからである然し今回の修養會に出席した私は始めて自分の信仰の足りない弱い事を悟つた、そして献身奉仕といふ意を根本から知る事が出來た彼の馬太傳十章三十九節の言葉は深く腦裏へ刻みつけられてある、諸先生方の御懇篤な御教へは實に私の心を醒ます警鐘である、自分が其の席に居る事が恥かしいまでに感じた、私の責任は是からである献身奉仕の心を有て最後の榮冠を得るまで戰はねばならぬ、今年の修養會に於て鮮明でなかつた私の献身的な心は凡てのものから其旗色を明かにし一層強く固められた事を深く感謝して止まぬのである

（三）

小寺ふく

一週間の夏期修養會は私共にとつて最も嚴そかな又最も樂しい時で御座いました。信仰の薄い私共の心の奥には「その生命を得る者は之を失ひ我ために生命を失ふ者は之を得べし」との標語が深く〲刻み込まれました、あのカルバリの岡に我々罪人の爲大いなる御苦しみを受け給ふた主エスキリストの爲め私共は自我の慾を捨て眞に己れを主に捧げたいと思ひます、是が修養會に於て得た第一の感じであります、其精神を直く樣實行致しませう、又一方に諸先生及び御集り遊ばした皆樣が此の馴れぬ私共をも誠に御親切に或は精神的に或は具體的に御導き下されし事を深く感じ蔭ながら喜びの感謝を神に捧げて居ります。

（四）

東京　柴田ふさ

修養會に御出席遊ばした諸先生方を初め會員の皆様其後御變りもございませんか私も神の御恵の下に平和に暮して居ります故御安心下さいませ、常に是非一度は出席致し度と永い間望んで居りました修養會に今年は何の幸か學校の代表者として神は此小さいつまらぬ私の出席を御許るし下さいました、私は喜び勇んで參りましたがあの一週間は實に終生忘るゝ事の出來ない程樂しく有益てありました歸へりましてからも朝夕思ひ出しては喜びに滿され又勵まされて居ります、初めは他事のやうに思つて居た御會も他人のやうに考へて居た會員の方々も今では全く自分の物又親しい御母様や御姉様の様に思はれて離れ難くなりました、フェリス女學校のあの食堂で始めて皆様におめにかゝりました時の悦びは今も尚私の心に深く殘つて居ります、皆様のニコ〳〵した御顔を拜見致しました時には久し振りで親しい御友達に逢つた氣が致しましたこれも諸先生方の御親切による事と深く〳〵感謝致して居ります、私共に與へられた寄宿舍は共立女學校で御座いました故皆様に接する折が少ないやうに存じましたが神は多くの友を御與へ下さいました事を感謝して居ります飢え渇ひて居た私の心は清い美くしい惠の泉にあつた心地がして此修養會の格言として御選びになりました聖句及び基督の人格がよく分りました、其惠を筆にも言葉にも言ひ盡せない事は誠に殘念に存じます、初めて出席致しました私には修養會の一週間は始めから終りまで喜びと感謝の外は御座いません、朝に夕に諸先生の有益なる御言葉又種々の方面に於ける皆様の御熱心なる活動振りを伺ひ私の小さい胸に抱かれぬ程澤山の惠を頂きました、諸先生が御敎へ下さいました通り其惠を及ぶ限り他に與へて神様の爲めに盡くし度と存じて居ります。友情の惠みに滿てる此全國各學校を代表された方々と親しく交はる事が出來た事及び同じ目的の下に協力して研究し修養する事が出來たことを實に愉快に感じました。神を信じて益々神を知らんとする私共は此修養會の格言を常に心に止め靈のバプテスマを受けて神様の御心を凡ての人々に紹介し凡ての人が神に依つて安心を得るやう熱心に働く事に固く決心致しました、今月から學校の青年會の爲めに第一に祈り働くつもりで居ります、末筆にて失禮乍ら修養會に御盡し下さいました諸先生方に厚く御禮申上げます尚またかゝる集會にてかゝる惠に與からぬ姉妹方は是非今より求め給ひて來年は是非一度靈の力に與からるゝ事を切に希望致します求むれば必らず與へて下さいます、委員諸先生及び係の方々の己れを忘れての御親切御盡力は會の印象の中に深くこもつて永く私共の修養上力になる事と存じます、來年の修養會までには三百五十日ほど日數が御座います其間何卒皆様御健やかにしていよ〳〵御業の爲めに定められた場所で與へられた務を御盡し遊ばされますやう蔭ながら祈り併せて本部の御發展を常に祈つて居ります。

（五）

横濱　小山千慈

指折り數へて待ちに待つて居りました一週間の修養會もまたゝく間に參り最早十日を過しました、顧みますとあの一週間程樂しかつた時は御座いませんでした、それに引きかへて先生方は諸用の爲め私共の爲めの御骨折とご定めし御疲かれの事と御案じ申上げて居ります、何卒此御休みには存分御靜養のほど祈り上げます、御蔭様で私は三年續けて出席致しましたが其中で今年ほど滿足と力を與へられた事は御座いませんでしたその印象は終生私を離れませんこれも皆先生方の御心づかひの事と深く感謝して居ります。

（六）

福井喜多子

今年初めて殊に未信者として出席致しました私は此一週間に於て得るところ少なくなかつた事を感謝して居ります、參りました二三日は皆様とも御交りも御座いませんので何となく淋しう御座いましたが日の經つに從つて一人二人と御名前も覺え歸る日には名殘惜しくて近い所に居るので幸ひ遲くまで殘つて居りました。修養會で得た感じは餘り多くて何から申上げてよいやら分りません、殊に外村先生の聖書の組におきまして自分の信仰を一入固く明らかに致しました事を深く感謝致して居ります、諸先生方より受けました貴い教訓を忘るゝ事なく行はねばならぬ決心を以て彼の山を下りました、二十四日の星野先生の御說教中の「靜かに聖書になれ」といふお言葉は常に心掛るつもりです、末ながら最後に此樣な有益な會を御開らき下さいました靑年會の諸先生に深く御禮を申し併せて今後の御發展を祈ります。

なんぢ朽つる爲に勞かずして
永生に至る糧即ち人の子の與
ふる糧のために勞くべし。

聖書研究

小預言者（一）

横田貞治

總論

十二小預言者とはホゼア、ヨエル、アモス、ヨナ、ミカ、ナホム、ハバクク、ゼパニヤ、ハガイ、ゼカリヤ、マラキの十二書を云ふのである、此等の書は早くより一卷に結び着けらたのであるが、多分短き文章が多い故其失はれること恐れて、かく一所に集められたのであらう。此等を普通に小預言者と云ふのはイザヤ、エレミヤ、エゼキエル等の大預言に對して云つたものであるが、彼等が必ずしも後者即ち所謂大預言者に劣りたる預言者と云ふ譯にあらず、單に此等に對して短い預言であるが故に小預言者と云ひしに過ぎないので、中には大預言者と云つて差

支ないものもあるのである。
此一卷にされて居る十二小預言者の順序は決して年代を追ふて居らぬ。固より編輯者としては年代的に配列した積りであらう。何故ホゼアを一番に置いたかと云ふに、一章二節に「エホバ初めホゼアによりて語り給へる時」と云ふ句がある、之によりてホゼアが先づ初めに預言せしものなるべしと解釋したらしい。餘り歴史的觀念の嚴密でなかつた昔の事であるから、編輯者が字義に拘泥したり、全く想像に依賴したりするので、到底其年代の正確と云ふ事の出來ないのは又已むを得ない所である。其れからホゼアの時代頃即アッスリヤ時代の初期の預言者であると思はるゝものを集め來り、ヨエル、アモス、オバデヤ、ヨナ、ミカを列べたのであらう、次にアッスリヤ時代の後期よりバビロン時代の預言者であると想像したナホム、ハバクク、ゼパニヤの三書を置き、最後に波斯時代に屬すると思ひし預言者ハガイゼカリヤ、マラキを輯めたものであらう。然れども我等は直ちに此順序を確實なるものとして受入るべきでない、よく其內容を吟味し、且歴史的事情を詳かにして、以上を見る時に誤謬の多い事を認めざるを得ないのである。

次に示すは大體に於て此等の預言者の年代であるが、固より之れとても、或所は全く想像によらねばならぬので、各人により說を異にするのである。然し自分の研究により、先づ大體に於て正確であると信ずるのである。

1	アモス書	紀元前七百六十年頃
2	ホゼア書	同　七百四十五年後
3	ミカ書	同　七百廿二年後
4	ゼパニヤ書	同　六百廿六年頃
5	ナホム書	同　六百〇八年頃
6	ハバクク書	同　五百九十六年後
7	ハガイ書	同　五百廿年
8	ゼカリヤ書	同　同年及五百十八年

（內九章以下は三百三十四年後と見るべし）

9 マラキ書　同　四百四十四年前
10 オバデヤ書　同時代頃?
11 ヨエル書　同　四百年頃
12 ヨナ書　同時代頃

(1)アモス書一章一節に「ウジヤ王ユダを治むる時、則ちヤラベヤム二世イスラエルを領しつゝありし時、地震の二年前」とありて、何時であるか不明なれど民心泰平に慣れ奢飾淫靡の風烈しき事情より推して、ヤラベヤム二世治世の後半期に屬すると思はしむる。即ち七百六十年より七百五十年の間とするのである。(2)ホゼア書一章一節「ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの世イスラエルの王ヤラベヤム二世云々」とあれど、これ編輯者の附加にして疑はしい、七百三十五年にイスラエル及スリヤは連合軍がユダに攻め込みし見遁がすべからざる大切なる事件に對する預言の無い所を見ると其以後でない事を示す。一章一節にはエヒフの家の將に倒れん事を預言す。エヒフの家とはヤラベヤム二世の屬する王家で其子ゼカリアが最後にして只僅かに六ケ月位にありしのみにて弑せられ、終に此平家は亡びたのである。之によつて見るにホセアの預言は其倒るゝ少し前ヤラベヤム二世の終り頃と見るべきで七百四十五年以後に初まり七百三十五年には既に預言をして居らなかつたと云ふ事になる。(3)ミカ書二章以下は南ユダに對するの預言であるが一章は北イスラエルの首府サマリヤ滅亡の預言であつて明かにサマリヤ陷落前の預言で多分包圍中のものであらう、サマリヤはアッスリヤにより七百二十四年に圍まれ七百二十一年に落城したのである。二章以下は其後に預言したのであるが、六章以下はミカの預言であるかと云ふ疑があれど又或人はミカがマナセ時代までも生き延びたと主張もする。(4)ゼパニヤ書一章四節五節に未だ偶像禮拜を批難しつゝあるは、申命記法律發布(六百廿一年)前を示す。六百二十六年頃シシヤン種族襲來の事實あり或はゼパニヤがエホバの審判の日來りしを宣言せしは此事件によりしなるべきか。(5)

ナホム書はニネベ落城の預言であるから其（即六百〇七年）前でなければならない。(6)ハバクク書は征服者バビロンに就て語れる所其時代と見るべしである。或者は六百年少し前とすれど寧ろ第一囚移（五百九十七年）と第二囚移（五百八十六年）の間とすべきか。(7)(8)共に明かにダリヨスの二年とあり正確である。ゼカリヤ書九章以下には希臘人の事を云ふ、歷山大帝現出後と見るべきか。(9)マラキ書果してマラキと云へる預言者ありしか、マラキとは「吾が使」の義で恐らく固有名詞であるまいと云ふ。其異國の婦を娶るを壯んに攻擊し或は什一其他の供物を怠るを戒め居る等はネヘミヤ及エヅラ書に於て大に論ぜられつゝある問題で同時代記或は少し前と見るべきで五世紀の中頃であらふか。(10)オバデヤも年代不明、然しマラキと同じ樣にエドムに關して論じ居る所同時代と見るべきか。(11)ヨエル書は以前九世紀又は八世紀の初め頃までも古いものと認められ居りしが近代に於ては寧ろ四世紀位のものとせらるゝに至つた文章に劍作的の所なく其他北イスラエルに就いて何にも云はず又王の事も語らず寧ろ長老が公會に重要視され居るは囚虜後時代祭司の權威重くなりし時代を暗示せずやと思ふのである四百年乃至三百五十年の產物か。(12)ヨナと云ふ人物は、ヤラベヤム二世紀頃であるが此書はヨナの預言にあらずしてヨナに關する物語で、寧ろ四世紀の初め頃と見るべきである。嚴密なる意味に於て之は預言書の部類に屬すべきではないが多分十二の滿數を成す爲めに此一書が小預言者に結び付けられしなるべきか。（未完）

牧場

辻村靖

深しげみさぎりに迷ふ牛の子の
　すゞのねすなり月くらき夕

牧童の口うそ笛に一むらの
　わたのうごくは羊なりけり

○第十一回夏期修養會

日本基督教女子青年會第十一回夏期修養會は豫定の通り去る七月二十一日より二十九日まで横濱山手フエリス女學校に於て開かれました。本年は東京に近き爲めか日歸へりの方も澤山ありましたが、まづ殆んど二百八拾名の出席者があつた事は、過去を通じて本年が初てでありました。今開會中の情況の大略を記すれば、

七月二十一日(金曜日)

上を下への準備も終へて今朝は早くより來會者諸姉をお迎へして居ると。宮城女學校の諸姉を先着に神戸女學院、ウヰルミナ女學校の諸姉は午前中來着されましたが、午後よりは俄かに賑やかになり、委員も室の案内に狼狽する程にて、階上階下は初對面の挨拶やら、久し振りの再會を喜ぶ笑聲に滿ちました。參會者は直ちに定められた室に旅裝を解き五時半に一同晩餐の卓に着きました、食堂は凡そ六十疊の大廣間で正面に「我は生命のパンなり」と書かれた額が掲げてありました。

●●會場は二階の大講堂が宛られ眺望設備共に申分ありません、吹き通ほす涼風を一杯に受けて、一方は遙かに芙蓉の白峰を望み、一面は校庭の緑色濃き芝生を見下す事が出來ました。

●●●開會式、午後七時より長谷川喜多子姉司會の下に開會式を行ひ、井深花子夫人歡迎の辭として「本年は本會の標語として馬太傳十章三十九節「その生命を得る者は之を失ひ我が爲に生命を失ふ者は之を得べし」を選びました。此聖句の中に主の御生涯が充分に現はれて言ひ難い優しい意味が含まれて居ります第一奮き我を捨てゝ新らしきを取る事第二犧牲の精神であります。エスが三年間の御奮闘は己の事を思ふ暇なく他人の事にのみ心を盡くされ最後に己を捨て、其死によつて幾層倍の善き實が結ばれたでありませうか。第三凡て物をなすに自力のみにては何事も出來ません必らず神力に待ち共力に助けられる

のであります(詩篇百二十七篇參照)何卒基督を模範として、主の爲、人の爲、生くるも死ぬも價値ある人となるやう此修養會に於て養はれん事を希望致します。昨年迄は實に不便な旅館で開きましたが、本年は立派なこのフエリス女學校を拜借することが出來て誠に感謝に堪えません。此修養會も本年は最早十一回に成りましたから、いつまでも借家せず、いつかは山も海も控へ閑靜で而も種々設備の整つた會場を建てて、講師の方々にも皆樣にも心行くまで安樂に出來るやうに致したいと望んで居ます。何卒皆樣も力を合せてお盡くし下さるやうに願ひます」云々と述べられました。次に城戸順子姉病氣故其代りを横田貞治氏に御依頼せしこと出村悌三郎氏は腓利比書を講義せらる事、及靜思時間、入浴等につき種々の注意あり終に三谷民子、小池賞枝兩委員よりの祝電朗讀あり九時半散會しました。唱歌隊は十數名の有志により組織せられミス、ベーカー指揮の下に準備せられ、又來會者中十數名はミス、エマソンに伴はれて同じ山手なる共立女學校に分宿されることになりました。

二十二日(土曜日)

△聖書の組、八時半より九時半迄日曜を除く外毎朝四組に分かれて開き、外村義郎氏求道者の爲め基督教教理の初歩に就き、出村悌三郎氏腓利比書を、稲垣陽一郎氏宗教的修養書としての詩篇と題して、横田貞治氏小豫言者に就きて講義せられ何れの組も一同希望と熱心を以て規則正しく出席者がありましたこの聖書の組は來會諸姉が宗教上の智識を啓發し益々信仰を養はる目的を以て特に力を用ひ功果も著しう御座いました。別けても求道者の中七名の受洗志願者を得たるは外村先生の御熱心なる御盡力に依る事と大いに感謝する次第であります。

△午前講演、ミス、エマソンの獨唱に次ぎ井深花子夫人司會の下に十時十五分より廣岡淺子夫人の「基督と婦人」に就きて講演があり、終りて支那女子青年會總幹事ミス、コボックより小此木松子姉の通譯

にて支那女子青年會に就いて一場の講演がありました。

△賣店、女子英學塾のポンス屋も時節柄氣がきいて居ました、本部よりの撰り抜きの書籍を廊下の一隅へ並べた本屋も中々繁昌して一人の賣手では目の廻る程多忙でありました。共立女學校よりの横濱名物龜樂煎餅に味付南京豆は方々で大好評、羽が生えて行く。

△午後の講演、四時より「女子と法律」に就き鵜澤總明氏の講演がありました。

△夕陽會、日蔭靜かに薄れ行く時一同校庭の芝生に集ふて多賀艶子姉司會の下に開會。靜かに心を同じうして神に捧ぐる祈、共に歌ふ讃美の聲は一層身に徹する心地がしました。

△園遊會、一同、共立女學校より夜外園遊會に招ねかれ、先づ共立諸姉より歡迎を受けて門を入れば校庭の周圍に點された球燈は風にゆら〱我等を待ちつけ顔であります。少時三々五々廣き芝生を逍遙し瀟洒な阿屋に休ひ、頓て冷えた麥湯の御馳走に與つて九時半頃一同引上げました。蓄音機の音は今猶耳に響いて我等を饗して居るやうな感であります。

二十三日(日曜日)

△讃美禮拜、午前九時より池てつ子姉司會の下に禮拜式を行ひ、次いで十時半より「生の死活」と題して今井壽道氏の說教がありました。此日の献金は外村義郎氏の慈善事業に寄附する事にいたしました。

△求道者懇話會、此會は共に打とけて互の思を述べ己の疑とする處を遠慮なく質問して益々神を知る便宜を與へるためで、集まる者求道者諸姉二十名、廣岡夫人の御感話がありました、其後質問もいろ〱あつて有益な會合でした。

△夕拜式、城戸順子姉司會の下に七時より夕拜式を行ひ、唱歌隊の歌に次ぎ同姉の感話あり。此山に登りし目的、此所にて受けし神の靈、山を降りてよりの任務等に付圖を描いて說明せられました。

二十四日(月曜日)

△早天祈禱會、五時半より會場に集ひ早天祈禱會を開く。人未だ醒めず。我全く神と共にありて恵の朝露に浴す。

△聖書の組、八時半より九時まで

△午前講演、十時十五分より小此木松子姉司會の下に星野光多氏の「クレネのシモン」と題しての講演がありました。

△親睦會、（別項記事參照）

△報告會、長谷川喜多子姉の司會にて七時より開き先づ井深花子夫人世界の基督教女子青年會及び日本靑年會本部に就きて其他より各支部につき報告されました。

二十五日（火曜日）

△聖書の組、前日に同じ。

△午前講演、例時より「生命に到るの途」に就き毛利官治氏の講演がありました。

△夕陽會、六時半より本校門前なるユニオン教會に於て夕陽會を開きました、横田貞治氏司會の下に同氏の聖書朗讀、數名の祈禱があり、一西洋婦人のパイプオーガンの獨奏もありました、高く低く太く細く響くその音我等を魅するほどでした。

△夜の講演、七時卅分より九時餘に亘りて高田愼吾氏が我國社會情況に就きて講演されました。

二十六日（水曜日）

△早天祈禱會、朝まだきより神の深き恵に浴せんと靜かに集ひ、安らけき夜を過ごし新しき今朝又新たなる力を與へらる。

△聖書の組、八時半より九時半迄講義。

△午前講演、例時より稻垣陽一郎氏の「献己奉仕の光榮」と題して講演あり。

△遠足、城戸順子姉に引連られ午後三時半出立。一行六十餘人本牧行電車に打乘り三溪園に向ひました園内の池の蓮今を盛りと咲き揃ひ葉にむすぶ水玉淸し。池畔を行けば右手に墨黑々と「出入禁止」の立札がありますので、聞けば詩聖タゴール寓居への途ださうでした、秋月庵を訪ひ五時半辨當を使ひ、やがて

海濱に出づれば烈しき驟雨に歸路を急ぎました。

△●●●●午後講演、七時半より宮川幹枝姉の司會で日本婦人傳道に就き長谷川喜多子姉の講演がありました。又ミス、マシユウは移民事業の一斑を述べられ、小此木松子姉通譯せられました。

二十七日（木曜日）

△●●●●聖書の組、例の如し。

△●●●●午前講演、城戸順子姉の司會で山室軍平氏「日常生活に於ける聖潔」に就きて講演されました。終りに故山室夫人臨終の模樣を述べられました時は一同涙を抑へて謹聽しました。

△●●●●協議會、午後七時より會長、社交部、聖書研究部傳道部、會計、宗敎集會部の六に分ち各司會者を定め異つた敎室に於て開かれましたが、來會者は各自この何れかに出席し、各支部代表者の報告に次ぎ司會者より參考となるべき數項を提供しました。

二十八日（金曜日）

△●●●●早天祈禱會、熱心溢るゝ感謝の祈禱と共に捧げらる。

△●●●●聖書の組、八時半より九時半迄講義。

△●●●●午前の講演、青山女學院某姉の獨唱につぎ植村正久氏の講演があり。

△●●●●午後臨時講演、「犯罪人に就きて」小管典獄有馬四郎助氏の講演がありました。

△●●●●閉會式、司會者長谷川喜多子姉及某姉の所感及主の祈を以て閉會。「またあふ日まで……」と歌へば愈々終りをつけた修養會が今更限りなく名殘惜しく思はれ、此天地！此友！限りなく湧き出づる感想も拙筆には言ひ盡し難ければ餘韻は諸姉の想像に委ねて擱筆いたします。（のぶ子）記

〇支部青年會報告

▲橫濱英和女學校青年會　私共の方では是まで共勵會に連らなつて居りまして誠に小さな會を組織致して居りましたが先頃より各自主にある私共がもつと基督敎的性格を互に養ひ尊い主の惠を廣く外部の人に分け與へやうと希ふ爲めには女子青年會に加はり諸女學校との連絡をつける必要を眞に認め多くの會員諸姉の希望により去る四月十三日遂に共勵會を離れて新に皆樣の御仲間入を致しまし

た、本會の制度規則は凡て本部に倣つて定めましたが大略左の通りてあります。

名稱　本會を横濱英和女學校基督教女子青年會と稱す

會員　正會員（本校教員及生徒にして基督教信者たるもの）

準會員（本會の目的を賛成する本校生徒及び女教員）

賛助員（本會の目的を賛成する男教員）

（會員合せて現在七十名あります）

會費　一ヶ月參錢

役員　會長、副會長、書記、會計各一名

委員　誘導部、集會部、社交部、手工部委員ありて各部に委員長をおく

集會　毎木曜日午後之を開き大會年二回とす

事業　日曜學校を設くること及び校内に販賣部を設く

御蔭で兩事業共追々盛んになつて參ります事を一重に感謝致して居ります、然し折角私共は大きな幹から枝を出して後日も猶淺く無經驗の者許りでありますから先輩の皆様が立派な御活動振を御示し下さつて私共のか弱い手を御引き下さるやう切に御願ひ致す次第であります。（小寺ふく子報告）

▲神戸女學院青年會　唯本會全體としての働の極々大體を最大急行で申し上げます、大正四年二學期の働（一）神戸市には男子青年會舘はありますが女子のがありませんので設立を神戸女學院内に致したいと思ひました小さき私共にとつては空想に過ぎない望ではありますが一生懸命に努力する時は必らず遠き將來に於て達せらるゝ事と思ひ其爲め特別貯蓄をする事を決し其第一歩として直ぐ目前に控えてゐた秋の運動會に小バザーを開き其利益を以て貯蓄の手初めと致しました、（二）市内の電話交換手を御招ねきしました、其目的は一方に同年輩の姉妹を基督教に導くと共に一方には毎日の疲勞を慰める爲でした、其後彼等に蒔いた種を培かつて行きたいと思ひ隔週の日曜日例會のない日に先生を聘したり又專門部の生徒により彼等の爲聖書の組を設けました初めの内は十人程集まりましたが追々少なくなり終には一人二人となりました、そこで一月一回宛講師を電話局に送る事に相談致し局長に交渉致した處其頃佛教の僧が月一回來るから其を斷つて基督教の牧師を入れる事は濟まない氣がするから兎に角一月待つやうにとの事でした、其後數回手紙で交渉致しましたが答がないので目下相談中であります、三學期には（一）神戸女學院創立四十年祭の折市内の女學生の爲に女學生大會を開きました、集まるもの凡そ三百人、講師としては京都の原田博士及び牧野牧師に御願ひ致しました、大正五年一學期には（一）卒業生及現在上級生の望みにより他の學校生徒の爲めに一つの英語宗教會を催しました此學期は宗教と文學といふ題でずつと研究する事が出來中々興味ある集會であります、（二）本會會費は殆んど日曜學校　働に用ひますので大會に代表者を送る旅費が御座ひませんでした折丁度同窓生の小倉　子姉歸朝され早速御願して音樂會を開きました、收入は千圓程ありましたが餘り規模を大きくしたので支出が收入の半分以上になりました、其利益の一部は同情舘のオルガンを買ふ補助として寄附致しました殘りは皆様の御報告なども伺ひ最も有益に用ひたいと存じます。（松原さかえ報告）

▲共立女學校青年會　項を分けて申上げます。

一、毎週必らず一回時を定めて役員祈禱會をなす、二、次回の集會及主意を一週間前掲示板に豫告す、三、一年間我々の受けし神の惠

に幾分の感謝を表せん爲感謝祭を期して金錢、野菜等思ひ〳〵に持ち來り貧しき者に施す、四、慈善部にては一年間に作りおきし襷、帶止、羽織紐、半吊等をクリスマスに際して女工に分配す、五、傳道部の一の働とする日曜學校にて生徒の持ち來る献金を子供と相談の上賛成を得て是を日曜學校生徒中最も貧しき者に與ふる爲又病院孤兒院の爲に寄附す、六、音樂部の働として唱歌隊を作り禮拜の讃美を導く、七、貧民傳道者へ毎月纔かづゝ寄附す、昨年の御大典紀念として個人傳道をなし好結果を得たり。（小山千慈子報告）

▲金城女子青年會　本會の事業を大略申述べます。

一、講演會、毎月一回第一水曜日之を開き名士を聘す當集會には本校說教會と聯合して開く事あり、一、共務會、毎週木曜日會員全部相會して一定の作業を營む其收益金は世の貧困者に施すに用ひらる、猶當集會細則は別に之を定む、一、日曜師範科の組、毎週土曜日兒童心理學及び教授法に付き各專門教師を招きて之を學ぶ又當日二名宛實地教授をなす

終りに本會會員中正會員九十五名特別會員十六名にて會費正會員一學期拾錢特別會員貳拾五錢以上を附加す。

▲フエリス女學校青年會　本會の働は皆様のと大低同じです唯一言申上げるのは昨年の御大典紀念に大傳道が行はれた際我校よりは新たに十數名の者が神の子となりました私共は其御祝にピンクのリボンに聖句を書いて御贈り致しました、又小集會は上級生が全部生徒を數組に分けて神の御言葉を敎へ毎月第三木曜日に舘舍牧師に御話を願つて居ります。（石川貞子報告）

▲捜眞女學校青年會　本會の責任ある集會で主なもの二種あります、一は木曜會と申し木曜日午後平均一月一回各級各々に分かれて祈禱會を開きます、其目的は未信者を導き信者相互の信仰を增す事であります、他の一は組合と申し毎日曜日の夜各級に分れて集會を開きますこれは寄宿舍の未信者を導く爲めてあります、此兩集會の指導者は同じ人で御座います其譯は指導者たる者は單に同會を致すに止らず出來得る限り一人〳〵に近く接して其人の信仰狀態を知り或時は個人的に信仰上の經驗を語り靜かに共に祈り或時は組中の信者を集めて未信者の爲め熱心に神に願ふのであります又或時は求道者の方々丈を集めて質問を伺ひ共に語り共に祈禱を致すからであります、其他木曜日に本校敎員及生徒に御集まりを願ひ共練部或は傳道部主催の下に會を開きますこれは殊是求道者の爲めに開くのです先頃も本校と連絡して講演會を開き又求道者の爲め特別集會を致しました其結果去月十六日十三名の者が公に信者となりました又家庭の事情の爲め信者として公表出來ないでも私かに基督を認めて居る者が十數名御座いますが五名の者は身も靈も神に捧げる様になりましたそして只今青年會會員となつて感心に人の爲めに盡して居り升。（坂本元子報告）

▲同志社女學校青年會　會員數九十五名、例會は通學生の便を計り毎週月曜日正午に開く、他の集會は組合聖書の組便天祈禱會毎月一回バツクストン氏の講演會及び會員相互の親睦を計る爲毎秋觀月會を開く、猶本年度に於ける主なる事を申せばミステーラー本校に滞在中同姉の働及び亞米利加青年會の活動振等親しく御話なされ大いに會員の心の鞭となる、二月十一日ミリアムクワイヤー主となり音樂會を催す純益約九十圓なりき、六月九日本校矯風會會員と協力し校內傳道の第一歩として演說會を開く出演者は凡て生徒其任に當る演題は「門を叩けよ」「神の愛」「神に依る忍耐」「吾人の理想」「新

禮の法」「エホバによれる歡喜」「美」等なり。宗教部委員は毎週例會の祈禱の題を定む、傳道部の働としては臺灣婦人傳道會に毎年幾分の寄附を爲す外唯新たに入學せられし諸姉に本校の生命なる同志社スピリットにより動く美くしい精神を傳へんと努力す。(同志社女學校靑年會長報告)

▲**横濱女子靑年會**　本會は大正二年の創立であります創立以來本會が特に盡力爲して居る事業は海外渡航婦人の爲めであります、渡航婦人の大部分は北米及び布哇に參るやうに見受けます船は一週一度は必らず出帆致しますが時には三十人乃至五十人或時は百人近くの三等婦人船客のあつた事も御座いました本會では御寄附の古雜誌や女子靑年會の古雜誌に北米及び布哇に於ける四ケ所の女子靑年會宿所書を添えて其等の婦人を訪問致す度に配布致します、時々社會事業に興味を持つて居らるゝ御婦人に渡米前後の心得を種々詳しく御話頒つた事もあります、所々で排日の聲を耳に致す今日私共は下層社會の殊に渡米婦人の改善を一日も等閑におけないと存じます此働は小にしては我が婦人問題解決の爲大にしては日米問題解決ともなる事と存じますから私共の力の及ぶ限り努める考で居ります。又本會には婦人休憩所がありまして商舘、會社、銀行に勤めて居る若い婦人方と毎十二時の晝飯に會合し互に打ち語らひ共に力となつて誘惑多い境遇を安全に送る事に盡力致して居る次第であります。(鈴木貞子報告)

○河井幹事其他より來翰

今年の第十一回夏期修養會に對し在米河井總幹事其他在米諸姉より懇切なる書翰を寄せられしが左の如し。又三谷民子小池實惠子兩姉よりも電報ありたり。

拜啓今回の修養會までには歸朝なし得んかと存じ居り候處それからそれと用務出來致し今月は米國に滯在致し居り候何卒諸姉の上に恩寵の豐かに降り信仰生涯の幸福を益々御味ひ遊さる樣祈り上候、私事只今此手紙をミルオキ市女子靑年會々長ミセスチャーチの御宅にて認め居り候此市には加藤高子樣の御滯在なされし土地故一昨夜殊に到着致し候以來斷えず人々と相語り昨日は一回靑年會にて一回は三教會聯合會にて講演致し今日はセントポールに出立致すべく候何處に參り候とも日本に對しての良友を見出し感謝に不堪候去る六月廿四日より廿八日まで加奈陀女子靑年會の修養會に出席致しミスカフマンと親しく日本の物語をなし得て嬉敷存じ候二十九日の夜はミスマクドナルドの御兩親の許に一泊致し又も日本の皆々樣の御話に夜をふかし候、既に御聞き及びしかも知れず候へ共來九月より米婦人五人我女子靑年會幹事として派遣さるることと相成り候、樣々の困難中にかゝる五人の新しき働人を神が我國に送り給ふを感謝なし下され度又彼等が其責任を果し得る樣御祈り下され度候今迄私は米國より幹事或は宣教師を派遣さるゝは容易なるものゝ如く思惟したる事も度々有之候へ共實際に接して適當なる人物及び資金を得るは實に困難なるものにて多大の犧牲が家庭に於ても個人に於ても拂はるゝものなる事を深く感じ申候かゝる故神の事業の貴重なるをも深く味ひ申候、私事幸にも諸姉の御同情と御祈りとを以て無事に今日まで消光致し候七月中出帆の心組に候ひしが加州よりの請求により一ケ月出帆を延引致す事と相成候何れ秋には皆々樣に御面會致さんと樂み居り候。

七月二日

イーグルスミヤパーク　河井道子

拜啓初夏の候皆々様益々御清榮奉賀候陳ば私共の愛する日本の諸姉妹方には定めし此手紙の御地に着する頃あちこちの學校其他の女子青年會より御集合に相成樂しく且つ有益なる御會を御催しの事と察しながら御喜び申上候當地に於ても只今諸所にて學生並に市内の女子青年會の修養會開催中にて合衆國のみにても其數十三四有之由に候私共日本の女學生も夫々近傍の集會に招待致されいと益多き會に加はり居り候私共は來客として參り居候へ共委員方を始め皆々樣御親切になし下され少しも他國に居るの心地致し申さず候、當イーグルスミヤと申す所はペンシルブエニアの北隅にていと景色よろしく人家離れたる山林に御候座日本で申せば一寸輕井澤の樣な場所に有之候此所には合衆國の中央オハヨー州以東に於ける多くのカレージ　スクールセミナリー等より多數の女學生等集合致し居り候今年の會合者は五百名以上にて八十七校を代表致し居る由に御座候。

學校の試驗終りて精神の勞れたる今日此頃此空氣新鮮なる山奥にて市内の混雜と塵芥をさけ心身を休養致しながら心靈を修養するの折を與へられたる事誠に誘惑多き學生等の身にとり此上なき幸福と存じ候誠に平素は學課多忙の爲め疎遠に相成居るもの又同じく米國にありながら未だ相知らぬ同胞と一緒に集まり互に舊情を暖め又相知り合ふて互に相助け力と相成候事實に愉快の事と存じ候聖書並に學術の研究祈禱會何れも有益ならざるはなく候へ共私共の最も興味を感じ候ものは私共同國人のみの集まりて互に心中を打ち開け我等の愛する母國の爲め考へ圖り祈る時に御座候、遙々當地に來りて勉學致し居る私共只當地の外部のみの感化を受くる事なく精神上の奬勵並に靈化を受け母國に歸りて後及ばずながら愛する同胞の力となり度ものと只管希望致し居り候何卒母國に居らるゝ姉妹方に於かせられても充分に精神の御修養に御努めに相成我等の愛する國家の爲め社會の爲め眞面目に御盡し下さる樣偏に願ひ上候猶當地に勉學致し居る私共學生等凡ての誘惑に打勝ち當地のよき處をのみ學び得る樣御祈り下され度候共立のミスブランソン並びにミスウエールスは私共と同家に御宿りにて種々日本人を御世話なし下され候。

先は當會の日本人より一筆御挨拶申上度右の如くに御座候。

六月廿九日　　イーグルスミヤカテヂ四十號にて

(共立女學校出身)　吉田のぶ子　(女子大學出身)　上代たの子

(同　上)　正田淑子　(長崎活水女學校出身)　高森富士子

(同　上)　梅崎須賀子　(女子學院出身)　三谷たへ子

(同　上)　三浦しげ子　(同　上)　井口はる子

(神戸女學院出身)　永井セラ子　(同　上)　內田文子

(普通土女學校出身)　岩澤トキ子　(フエリス女學校出身)　須藤いへ子

(同　上)　林　貞子

○親睦會

七月二十四日午後二時から待ちに待つた第十一回夏期修養會の親睦會は大講堂で開かれた。遠く東から西から相集つた見も知らぬ人等が互に心を開いて相睦み合ふ日である。朝から薄曇りのした空は會が始まる頃には本降りとなつて窓から眺めた外の景色はぼんやりと雨に煙つて阿屋も青い木も草も美しく露を含むで居た。講壇の處にはグリーンの幕が張られて居る。百五六十人の聲は互に語り互に笑ひつゝ餘興の始まるのを待ち構えて居る。一同讃美歌を歌ふた後フエリス女學校の方の開會の辭が終ると靜かに幕が開

かれた。品のよい美しい方のピアノの獨奏が靜かに始まつた。フェリス女學校の方とか外の雨と共に皆しんみりとせられたのであつた。次は「リップ、ベア、ウヰンクル」流石英學塾だけあつて種は西洋種であつたが言葉は日本語、中にも主人公の表情の上手なのには黒人跣足であつた。リップの鬚の紙でつくつてあつたのにはお腹の皮をよらせた。青山女學院の三部合唱「ＡＢＣ」と「いろは」は實にいゝ思ひつきで奇拔であつた。次はタゴール流行の今日に其弟子として兩方に編み下げを垂した可愛いゝ共立女學校の生徒が十人程表はれた。面白い歌に合せて其チャン〳〵を後へひよい〳〵やりながらくる〳〵廻つたのも中々妙であつた。同志社の三部合唱も美しく聞かれた。次は神戸女學院の狂言萩大名とか云ふのらしがつたが最後の切目のうやむやになつたのも却つて愛嬌であつた。可愛いゝ双葉女學校の歌のあとで舞臺に表はれたのは赤毛布を着た親子三人連れの田舎者である。弘前女學校の生徒とは思はれぬ程假裝が上手であつた。東京者には少しもわからぬ弘前辨には只他愛なく笑ひくづれて終つた。東洋英和の「遊戯唱歌」は中々人生をうがつたものでハイカラなもので無邪氣な物で又可愛いらしかつた。藝人揃ひの青山女學院の「表情劇」狐や犬等の面をかぶつて面白い歌に合せて踊るのであつたが中々巧みなものであつた。今年は馬鹿に印度に縁がある樣で遺愛女學校も「印度の歌」と云ふのをした、眞黒な風呂敷に顔をすつかり包んで目ばかりキヨロ〳〵出して赤い着物を着た趣向は變つて居た。皆笑ひを禁じ得なかつた。フェリス女學校の方のピアノ獨奏メモレーで彈かれたが面白い曲であつた、ウヰルミナの廣告の看板に又もや皆笑ひくづれた、女子大學の唱歌の後搜眞女學校の英語の狂言があつた、發音と云ひ表情といひ中々達者なのには皆々舌を卷かせた。お互に分け隔てなく一つの主義の下に睦み合つた一同は美しい交りに醉つた樣に口々に讃美を稱へつゝ會場を出たのは五時近くであつた。

○講師、敎師、會員

第十一回女子夏期修養會講師及敎師幷に會員、學校及出席者氏名左の如し

△講師及敎師

今井壽道氏　廣岡淺子氏　星野光多氏
毛利官治氏　高田愼吾氏　鵜澤總明氏
山室軍平氏　植村正久氏　稻垣陽一郎氏
横田貞治氏　外村義郎氏　出村悌三郎氏
有馬四郎助氏

△出席者數

總數　二百七拾八名

△學校及青年會

總數　三十七校及二青年會

プール女學校（大阪）　神戸女學院（神戸）
金城女學校（名古屋）　同志社女學校（京都）
ウヰルミナ女學校（大阪）　遺愛女學校（函館）
宮城女學校（仙臺）　弘前女學校（弘前）
東洋英和女學校（東京）　青山女學院（東京）
女子學院（東京）　女子英學塾（東京）

搜眞女學校（神奈川）　横濱英和女學校（横濱）
フェリス女學校（横濱）　日の本女學校（姫路）
共立女學校（横濱）　廣島女學校（廣島）
梅花幼稚園保姆傳習所（上田）　津山女學校（岡山）
岡山縣立女學校（岡山）　井原高等女學校（岡山）
女子高等師範學校（東京）　笠岡實科師範女學校（岡山）
安房高等女學校（千葉）　女子大學校（東京）
双葉女學校（東京）　東京女學館（東京）
三輪田高等女學校（東京）　市岡高等女學校（大阪）
梅花女學校（大阪）　東金女學校（千葉）
女子聖學院（東京）　日本高等女學校（東京）
女子職業學校（東京）　奈良女子高等師範學校（奈良）
佐野高等女學校（栃木）　盛岡女子青年會（盛岡）
札幌女子青年會（札幌）

△出席者氏名

○プール女學校　玉造ゆきの　家近たづえ
鳥居なつ
○神戸女學院　秋元とし子　松原さかえ
増井花江　溝牛愛子　有馬久江
○金城女學校　長坂美代　柴田文子
○同志社女學校　恩田靜子　井深八重
原美榮　平田千代
○ウヰルミナ女學校　藤野喜美　民秋しう
鈴木すゞ　今村燕
○遺愛女學校　堀順　今ヒデ
岡野とみ
○宮城女學校　宗像千代　菅井楙
長池文子　原田ことぢ
○弘前女學校　吉川つや　佐藤八重
古川たけ
○東洋英和女學校　ミス、キャンベル　牧野花子
佐藤たけじ　内田勝代　田邊芳子
種子田米子　小堀よし子　田邊しげ子
松平初子　大舘その　中溝きく
山本しげ
○青山女學院　保田みつゑ　櫻川みね
伊藤英　小林君子　柴田ふさ
安藤こう　青山雪　鳴海くに
佐々木みとし
○女子學院　田中いち　山中賤子
○女子英學塾　ミス、マクドナルド　石山梅
中西司那　上野あき　千村重
日高昭　小牧ひさえ　瀧澤まつよ
菅野操　小野やな　稻垣しま
木岡利　安井幸　宮澤操
上野さと　粕谷よし　矢野秀
水野ひろ　齋藤文　齋藤その
○搜眞女學校　坂本元　小森谷鶴代
坂西志保　穴水操　岩崎きよ
千葉ちゑ　布澤好枝　藤本みや

土田美千枝
藤沼けい
千賀光
秋本よし
○横濱英和女學校
山本安
小寺ふく
山中靜
○フェリス女學校
春日よし
小林よし
若山花
豊田みどり
六角つね
倉林悦
豐田華
間宮みよ
椎野柳
ミス、カイパー
○日の本女學校
○共立女學校
福井喜多
原田蒔
小川いせ
松本松枝

谷口文子
安藤とよ
高田輝代
湯川千重
岩谷しげ
小野喜志
遠藤繁
渡邊るい
鈴本鉞
渡邊ふみ
井上いそ
佐野みつ
間野千代
橋本きよ
澁谷春枝
中尾富美
山田千代
池てつ
兒玉ます
貫志信
長谷川とよ
小山千慈
成田正
草柳愛
武笠みつ

川村やう
荻野せき
伊藤隆
岡野とよ
長島幸
關口貞
竹林しのぶ
西村巴
石川てい
武安あい
廣瀬ふさ
戸田花
新居花
黛邦
室原まり
高木はつ
大友淸
佐治てい
荻野絹
伊藤恒
牧野喜美
石川靜
ミス、ルーミス

○廣島女學校
ミス、シヤナン
瀧澤富枝
○梅花幼稚園
○津山女學校
陶山よね
○岡山縣立女學校
多賀艶
○井原女學校
藤浦初音
○笠岡女學校
山科鐵枝
○女子高等師範學校
矢島愛子
小高つや
○安房女學校
淸水みづえ
○女子大學校
ミス、フイリップス
小山順子
長野初
松波
淸水きよし
○双葉女學校
中川春
野村ふき
○東京女學館
ミス、シエパード
○三輪田女學校
高杉かなを
高野鐐子
石野とよ
○市岡女學校
藤井歌
○梅花女學校
五味菊
島田すま
○東金女學校
木原よね
○女子聖學院
河口正子
○日本高等女學校
河合春子
○女子職業學校
淸岡みきえ
○奈良女子高等師範學校
田島たみ
○佐野女學校
須田しげよ
○盛岡女子青年會
内藤みほ
○札幌女子青年會
鈴木とよ
平岡けい
○個人出席者
和田てう
ミス、ゲルハート

ミス、バウテル	麻田よし	友野ひで
鈴木さだ	藤田しず	稲沼妙
稲沼すま	室原夫人	蔦田歌
牧田てる	名倉	城座みよ
松浦泰	佐藤正	吉濱いく
三井操	須田みほ	大西絹
星野靜枝	水野ます	門倉藤
後藤治	奥平敏	世良田勇
藤島杜代	柿原千代	秋田文
池山愛	堀てる	久富すみ
岩本	大橋ふさ	武井はる
宮川しげよ		

（但し臨時聽講者をも含む）

○看護婦

加藤初野（三井慈善病院より）

○委員及事務員

井深花子	長谷川喜多子	
小此木松子	志立たき	野村道子
城戸順	植村環	ミス、マシウ
加藤高子	ミセスクレメント	ミス、ウエスト
ミス、ペーヂ	ミス、ベーカー	ミス、エマソン
ミス、レーガン	宮川幹枝	大呑久子
小篠端子	佐藤まさ	松宮信

○總幹事ミスマシウ　今春日本基督教女子青年會本部總幹事就任と同時に急に會務を帶びて米國に赴かれしミス、マシウは、それ〲要務を終へて七月十九日無事横濱に歸着せられたり。

○河井總幹事歸朝　豫て渡米中なりし日本基督教女子青年會本部總幹事河井道子姉は在米日本婦人の視察其他の要務を終へ八月二十九日無事歸朝せられたり。

○大呑、坂本兩姉の渡米　女子高等師範附屬高等女學校研究科を卒業し暫く女子青年會本部及東京支部事務員として働かれたる大呑久子、神戸女學院出身にて英學塾に學び卒業後尾道高等女學校に教鞭を採られし坂本花代の兩姉は今回渡米暫くトラントにて修學の上女子青年會幹事養成所に入學せらるゝ筈にて八月十七日横濱を出立されたり。

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税共	內地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	金八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金參拾錢
四分一頁	金二圓
半頁	三圓五拾錢
全頁	金六圓

年極又は回數により割引有

大正五年八月廿八日印刷納本
大正五年九月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉太郎
印刷所　芝區櫻田和泉町七番地　三秀舍

tion shows 123 in attendance for single meetings up to six days, 125 girls for whole time, 29 leaders, teachers and speakers. An incomplete record of denominations in attendance at Bible classes shows 38 Presbyterians, 26 Methodists, 14 Episcopalians, 13 Congregationalists, 8 Baptists.

Miss Margaret Matthew, national secretary, returned from the United States on July 17, after seven months of work, especially on the beginnings of work for Japanese women emigrating to America. Miss Michi Kawai, also national secretary, returns August 30, after a year and a half in the United States, spent in the National Training School, and in study of the emigration problem.

Miss Hisa Onomi, graduate of the higher department at Ochanomizu Girls' High School, and formerly office secretary in both the national and the Tokyo offices of the Young Women's Christian Association of Japan; and Miss Hanayo Sakamoto, graduate of Kobe College and Miss Tsuda's English School, lately teacher in Onomichi Girls' High School; sailed by the Empress of Asia August 17, on their way to school in Toronto, where they will study two or three years in preparation for Association work in Japan on their return.

The National Committee is expecting four new secretaries from the United States this autumn: Miss Gunter, Miss Green and Miss Hard to arrive the middle of September, and Miss Verry sometime later in the year.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XIII SEPTEMBER, 1916 NUMBER 8

The eleventh summer conference of the Association in Japan wes held at Ferris Seminary, Yokohama, from July 21-29. It was the largest and most successful conference held in recent years, the total registration being 278, at least fifty more than ever before. The fact that the conference was held in a city made it possible for about fifty girls to attend the whole conference, going back and forth from their homes daily. About 150 were in attendance the whole time. Sixteen of these were non-Christians, seven of whom decided to become Christians.

Besides the Bible class for inquirers led by Mr. Tonomura, classes in the Psalms, Minor Prophets, and Philippians were very successfully led by Rev. Inagaki, Rev. Yokota, and Mr. Demura. Outlines of these studies will appear in the "Young Women of Japan" during the year. The address of the conference, bearing on the motto, "He that findeth his life shall lose it; and he that loseth his life for my sake shall find it," were given by Madame Hirooka, Rev. Judo Imai, Rev. Hoshino, Rev. Mori, Rev. Inagaki, Colonel Yamamuro, Rev. Uemura.

Especially strong was the social program of the conference. Dr. Somei Uzawa, M. P. gave a splendid address on "Women and Law." This was followed by an enlightening exposition of philanthropic and charity work carried on at the present time in Japan, by Mr. Shingo Takata, the head of that department under the Home Department of the Government. "Christian Work for Women" including the Women's Evangelistic Work in connection with the three-year campaign, new plans for summer vacation work by members of the student Associations, were presented by the leader of the conference, Miss Kita Hasegawa. Miss Grace Coppock, national secretary of the Young Women's Christian Association of China, brought greetings and described the work already begun in China by summer vacation clubs. Miss Matthew presented the "Emigration Problem" as it concerns the women of Japan, and gave a report of the investigations made in America by herself and Miss Kawai during the past year. On the last evening of the conference, Mr. Arima, the Christian governor of the largest prison in Japan, Kosuge, told of the work being done for prisoners, and spoke especially on the responsibility of women toward the solution of crime.

Some very pleasant events filled the free time of the conference. One afternoon was given to "stunts" by the different delegations, two or three afternoons of games and athletics indoors whiled away the rainy hours, the leaders gave a fifteen-minute production of "Romeo and Juliet" in Japanese a la Ben Greet, one afternoon there was a trip to Mr. Hara's garden at Honmoku, one evening the girls at Kyoritsu Girls' School gave a lantern lawn-party, and the organist of Yokohama Union Church played the pipe-organ for the girls one evening after the vesper service.

The statistics for the conference are very interesting this year: 23 Associations of 25 were represented; 36 schools included 18 mission, 4 Christian but not mission (one Catholic), 4 private, 10 government schools; the registra

日本基督教女子青年會

目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を圖り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事

左の事項を奬勵す

青年女子の間に基督教的智識を普及し之を導き基督耶蘇を救主として信奉せしむる事

青年女子の靈的生命を涵養し獻身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

會友

基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を贊助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

會友の種類及會費は左の如し

通常 年 金壹圓 維持 年 金貳圓以上

會友には本會機關雜誌「女子青年界」を送附す

會友たらんと欲する者は本會本部に申出べし

事業一班

巡廻訪問 本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方な巡廻視察し本會の發展を圖る

出張講演 廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

機關雜誌 月刊「女子青年界」を發行し靈性智識の資に供す

紹介部 一般女子のため諸般の紹介をなす

寄宿舍 東京市内に青年女子の爲監督寄宿舍を設く將來他の都市にも設立せん事を期す

宿泊所 外國婦人の要求に應じ併て日本の眞相を紹介す

夏季修養會 毎年夏季山水明媚の勝地に開會し專ら女子の修養を圖る

旅行者の友 地方より上京する婦女子の保護を要する者の救濟保護に任ず

社會部 所屬幼稚園有り主として下級社會の幼兒を收容し且其家庭の傳道啓發につとむ

中央委員

委員長 井深花子

副委員長 岡見惠子

記錄書記 三谷民子

會計 井上友子

萬國基督教女子青年會同盟委員 河井道子

委員

津田梅子(東京)

エ、ピ、ウエスト(東京)

鈴木歌子(東京)

小此木松子(東京)

長谷川喜多子(東京)

星野愛子(東京)

サラ、エリス(東京)

イ、クレメント(東京)

山田千代子(横濱)

藤田貞子(横濱)

城戸順子(横濱)

廣岡淺子(大阪)

ケー、トリストラム(大阪)

エム、エフ、デントン(京都)

佐伯小糸(京都)

松田道子(京都)

エス、ソール(神戸)

上代淑子(岡山)

役員

總幹事(本部) 河井道子

同 (同) エム、エル、マシウ

書記(同) アール、レーガン

總幹事(東京) エム、ペーチ

同 (同) 加藤高子

特志幹事(同) イー、アル、カウフマン

幹事(横濱) エム、ペーカー

事務員 本部 松宮のぶ子

事務員(東京) 小篠端子

事務員(横濱) 鈴木貞子

旅行者の友係 林ふさ 松崎滿喜

幼稚園主任保姆 世良田勇子

幼稚園助手 古谷たまき

第一寄宿舍監 門倉ふじ

第二寄宿舍監 大西絹子

第三寄宿舍監 有田玉子

宿泊所取締 ミス、ダルトン

東京市神田區北神保町十四番地

日本基督教女子青年會本部

大正五年八月廿八日印刷納本　大正五年九月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可